

阿武隈急行線地域公共交通計画

資料編（案）

～沿線地域の持続性向上に欠かせない基幹インフラとして、
「地域と共にあり」「地域をつなぐ」公共交通ネットワークの構築を目指す～

2025 年 月

福島市・伊達市・角田市・柴田町・丸森町

福島県・宮城県

【資料1】

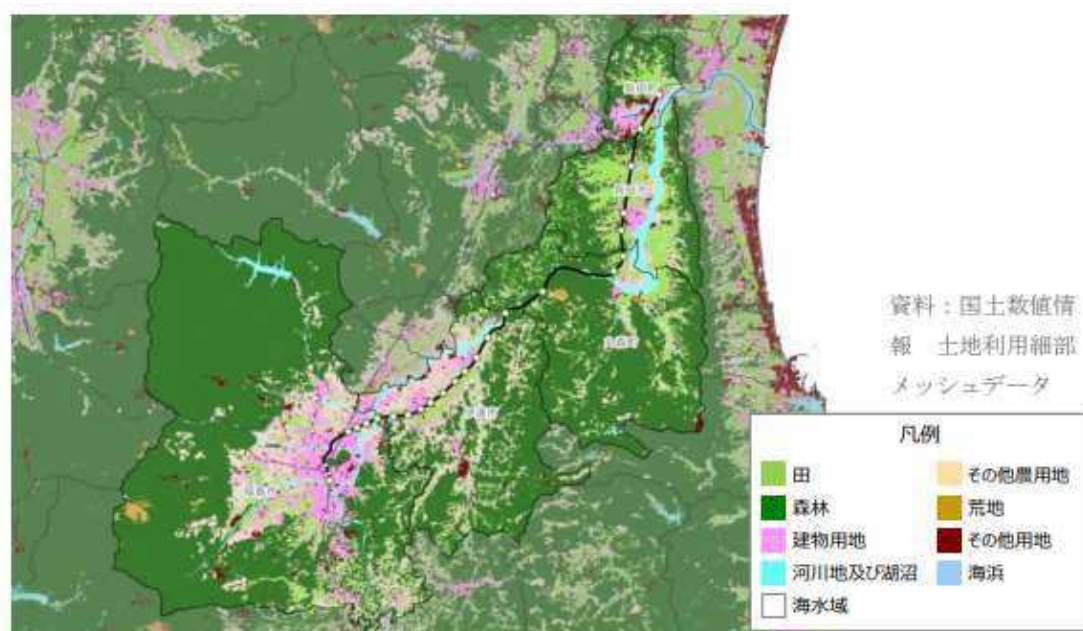


図 土地利用現況図（2014 年）

【資料2】

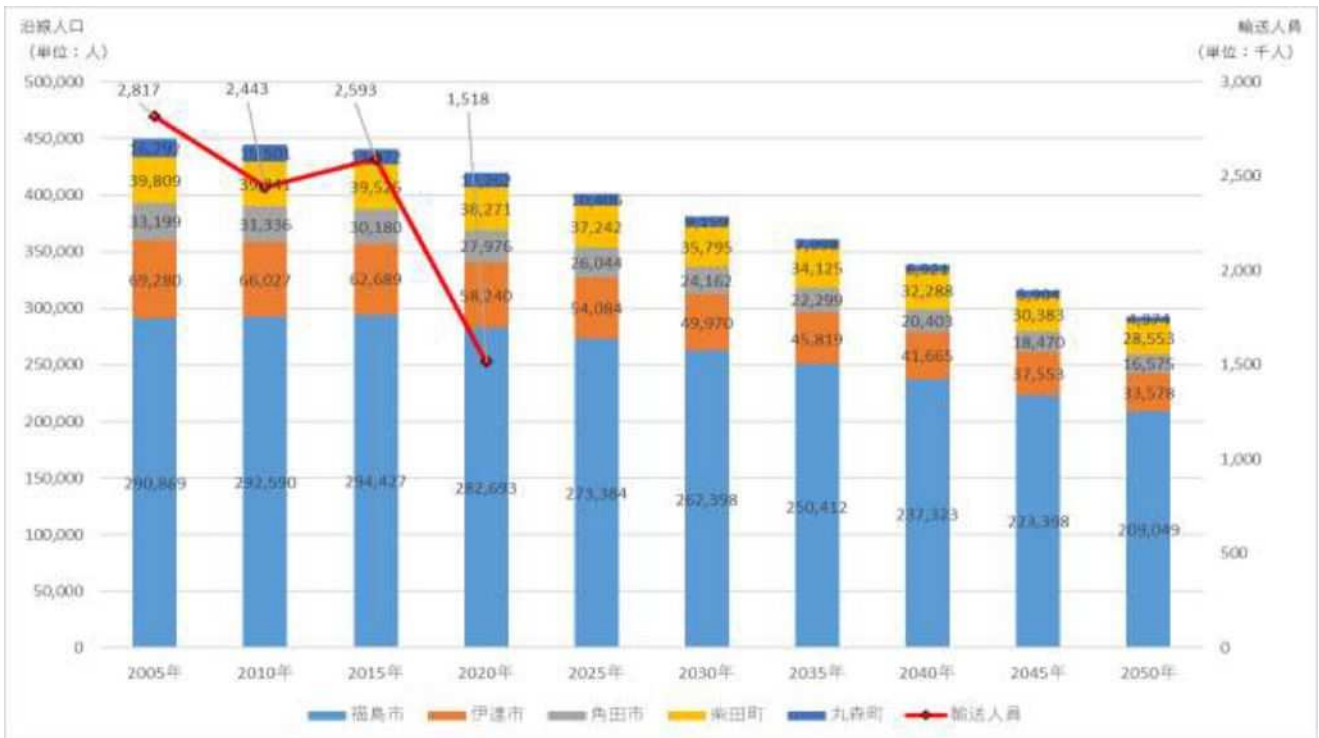


図 阿武隈急行線沿線市町の人口推移及び将来推計人口と輸送人員の推移

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（令和5（2023）年推計）

※輸送人員は2020年まで。



図 沿線市町の年齢3区分別人口

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（令和5（2023）年推計）

【資料3】

		駅勢圏1km内人口（人）						
		2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045
福島市	15歳未満	6,611	6,000	5,947	5,425	4,780	4,293	3,791
	15～64歳	34,284	32,142	30,326	27,849	25,203	22,033	19,417
	65歳以上	13,901	14,364	16,006	16,663	17,360	18,197	18,302
伊達市	15歳未満	3,535	3,162	2,754	2,583	2,308	2,097	1,909
	15～64歳	16,970	15,217	14,339	13,072	11,798	10,376	9,221
	65歳以上	9,099	9,455	9,735	9,555	9,458	9,396	9,031
角田市	15歳未満	1,703	1,500	1,209	1,026	876	735	621
	15～64歳	7,229	6,579	6,078	5,563	5,015	4,348	3,668
	65歳以上	3,566	3,756	4,017	4,032	4,013	4,037	4,010
柴田町	15歳未満	2,341	2,142	1,964	1,758	1,619	1,480	1,348
	15～64歳	9,933	9,644	9,566	9,325	8,868	8,116	7,316
	65歳以上	3,824	3,937	4,294	4,318	4,355	4,567	4,794
丸森町	15歳未満	346	273	227	177	144	114	90
	15～64歳	1,580	1,312	1,127	976	843	720	578
	65歳以上	1,025	1,071	1,019	966	898	823	763
合計	15歳未満	14,536	13,077	12,101	10,969	9,727	8,719	7,759
	15～64歳	69,996	64,894	61,436	56,785	51,727	45,593	40,200
	65歳以上	31,415	32,583	35,071	35,534	36,084	37,020	36,900
	総人口	115,947	110,554	108,608	103,288	97,538	91,332	84,859

		2020からの増減率	
		2030	2035
福島市	15歳未満	90.4%	79.7%
	15～64歳	86.6%	78.4%
	65歳以上	116.0%	120.9%
伊達市	15歳未満	81.7%	73.0%
	15～64歳	85.9%	77.5%
	65歳以上	101.1%	100.0%
角田市	15歳未満	68.4%	58.4%
	15～64歳	84.6%	76.2%
	65歳以上	107.3%	106.8%
柴田町	15歳未満	82.1%	75.6%
	15～64歳	96.7%	92.0%
	65歳以上	109.7%	110.6%
丸森町	15歳未満	64.8%	52.7%
	15～64歳	74.4%	64.3%
	65歳以上	90.2%	83.8%
合計	15歳未満	83.9%	74.4%
	15～64歳	87.5%	79.7%
	65歳以上	109.1%	110.7%
	総人口	93.4%	88.2%

表 駅勢圏（駅から半径1km圏域）人口の推移（実績及び予測）

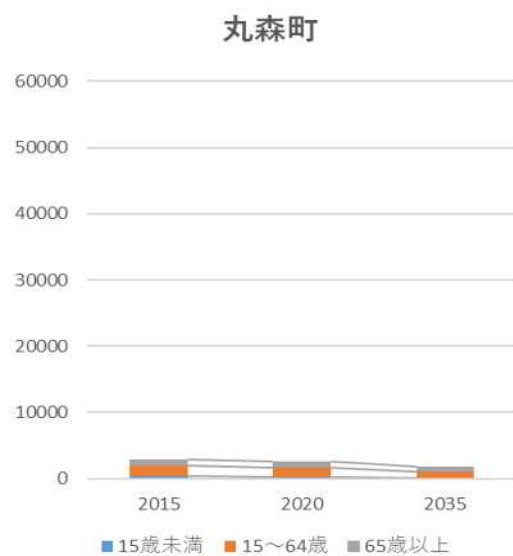
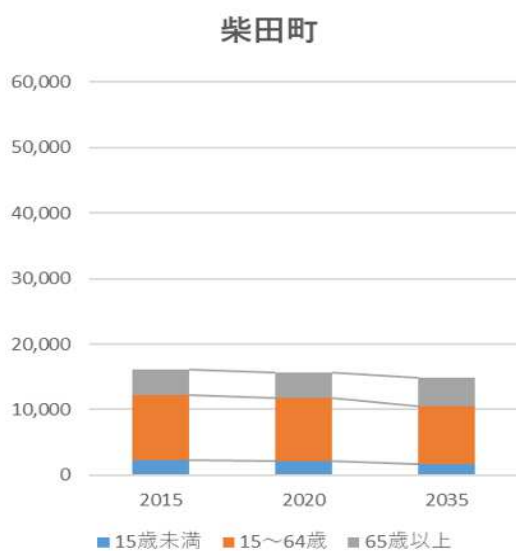
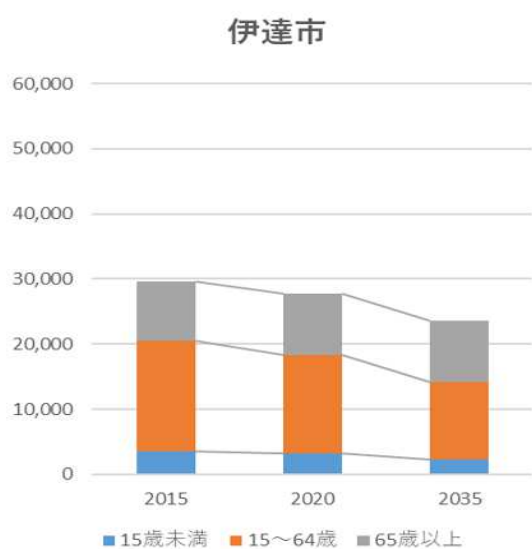
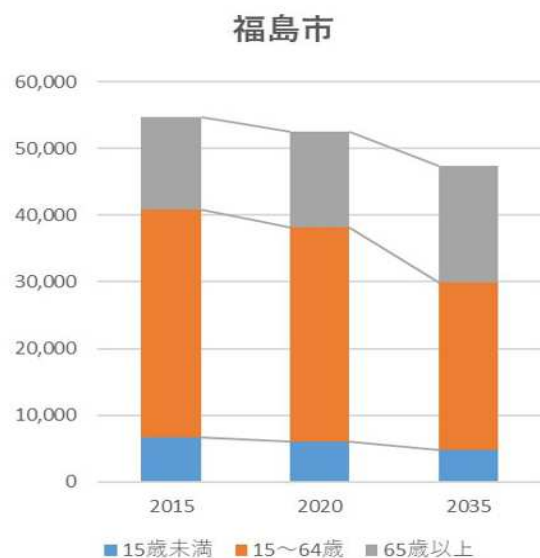
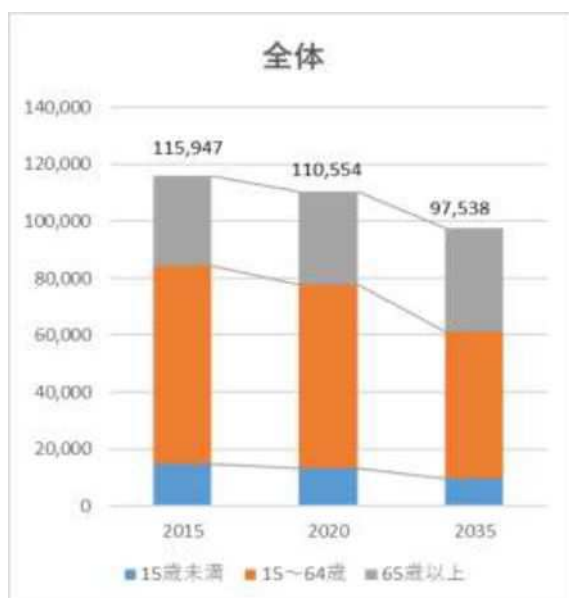


図 駅勢圏（駅から半径1 km圏域）の3区分人口の推移（実績及び予測）

【資料4】

	種目	施設名	駅圏域内	
			1km	500m
福島県	福島市	市役所・町役場	福島市役所	
		市役所・町役場	福島市市民センター	
		支所	渡利支所	
		支所	杉妻支所	
		支所	蓬萊支所	
		支所	清水支所	
		支所	東部支所	
		支所	大波出張所	
		支所	北信支所	○
		支所	吉井田支所	○
		支所	西支所	
		支所	信陵支所	
		支所	立子山支所	
		支所	飯坂支所	
		支所	松川支所	
		支所	信夫支所	
		支所	吾妻支所	
		支所	飯野支所	
		支所	西口行政サービスコーナー	○
		支所	男女共同参画センター「ウィズ・もとまち」	○
		図書館	福島市立図書館	
		図書館	福島市子どもライブラリー	
		図書館	福島県立図書館	○
		図書館	福島県点字図書館	○
		図書館	福島県立医科大学附属学術情報センター図書館	
		図書館	フクニチャージ図書館（福島大学附属図書館）	
		図書館	桜の聖母短期大学図書館情報センター	
		図書館	福島学院大学図書館情報センター宮代図書館	○
		体育施設	NCVふくしまアリーナ（福島市体育館・武道場）	○
		体育施設	信夫ヶ丘総合運動公園（信夫ヶ丘緑地公園）	
		体育施設	中央市民プール	
		体育施設	南体育館	
		体育施設	福島トヨタクラウンアリーナ（国体記念体育館）	
		体育施設	西部体育館	
		体育施設	十六沼公園	
		体育施設	湯野運動場	
		体育施設	あづま総合運動公園	
		体育施設	ふくしま自治研修センター	
	伊達市	市役所・町役場	伊達市役所	○
		支所	伊達総合支所	○
		支所	梁川総合支所	○
		支所	霊山総合支所	
		支所	月館総合支所	
		図書館	伊達市立図書館	○
		体育施設	伊達体育館	
		体育施設	伊達東グラウンド	
		体育施設	伊達グラウンド	
		体育施設	保原総合公園	○
		体育施設	保原プール	○
		体育施設	保原体育館	○
		体育施設	保原第2体育館（ユニーユニー体育館）	○
		体育施設	中瀬グラウンド	
		体育施設	梁川体育館	○
		体育施設	梁川プール	○
		体育施設	五十沢運動広場	
		体育施設	霊山体育館	
		体育施設	霊山運動広場	
		体育施設	月館運動場	
		体育施設	月館体育館	

表 公共施設一覧（福島県内）

		種目	施設名	駅圏域内	
				1km	500m
宮城県	角田市	市役所・町役場	角田市役所	○	
		支所	北郷自治センター	○	
		支所	東根自治センター		
		支所	西根自治センター		
		支所	藤尾自治センター		
		支所	角田自治センター	○	○
		支所	横倉自治センター	○	
		支所	小田自治センター		
		支所	枝野自治センター		
		支所	桜自治センター		
		図書館	角田市図書館		
		体育施設	角田中央公園		
		体育施設	あぶくまパークゴルフ場		
		体育施設	角田市民ゴルフ場		
	柴田町	市役所・町役場	柴田町役場		
		支所	槻木生涯学習センター	○	○
		支所	船岡生涯学習センター	○	○
		支所	船迫生涯学習センター		
		図書館	柴田町図書館		
		体育施設	船岡体育館		
		体育施設	槻木体育館	○	○
		体育施設	並松運動場	○	
		体育施設	柴田町総合運動場		
		体育施設	阿武隈川運動場	○	
	丸森町	市役所・町役場	丸森町役場		
		支所	丸森まちづくりセンター		
		支所	金山まちづくりセンター		
		支所	筆甫まちづくりセンター		
		支所	大内まちづくりセンター		
		支所	小斎まちづくりセンター		
		支所	館矢間まちづくりセンター	○	
		支所	大張まちづくりセンター		
		支所	耕野まちづくりセンター		
		図書館	丸森まちづくりセンター図書室		
		図書館	丸森町立金山図書館		
		体育施設	町民体育館		
		体育施設	川平スポーツ交流センター		
		体育施設	青葉コミュニティセンター体育館		

表 公共施設一覧（宮城県内）

【資料5】

		種目	施設名	駅圏域内		生徒数 (2025)
				1km	500m	
福島県	福島市	高等学校	福島高等学校			838
		高等学校	橘高等学校			831
		高等学校	福島商業高等学校			710
		高等学校	福島明成高等学校			483
		高等学校	福島工業高等学校			689
		高等学校	福島西高等学校			579
		高等学校	福島北高等学校			291
		高等学校	福島東高等学校			713
		高等学校	福島南高等学校			473
		高等学校	福島中央高等学校			62
		高等学校	松韻学園福島高等学校			492
		高等学校	福島成蹊高等学校			830
		高等学校	福島東稜高等学校			802
		高等学校	桜の聖母学院高等学校			168
		短期大学	福島学院大学短期大学部	○	○	168
		短期大学	桜の聖母短期大学			160
		大学	福島大学			4,432
		大学	福島県立医科大学			2,004 ※
		大学	福島学院大学	○	○	528
		特別支援学校	大笹生支援学校			216
		特別支援学校	福島大学附属特別支援学校			50
		特別支援学校	福島市立ふくしま支援学校			136
		特別支援学校	視覚支援学校	○		21
		特別支援学校	聴覚支援学校福島校			18
		特別支援学校	須賀川支援学校医大校			7
	伊達市	高等学校	伊達高等学校	○		331
		高等学校	聖光学院高等学校			603
		特別支援学校	だて支援学校	○	○	121
宮城県	角田市	高等学校	角田高等学校	○		410
		特別支援学校	宮城県立角田支援学校			132
	柴田町	高等学校	柴田高等学校			401
		大学	仙台大学			2,490
		特別支援学校	宮城県立船岡支援学校			55
	丸森町	高等学校	伊具高等学校			154

※2024.5.1時点の在席者数。

表 教育施設一覧

【資料6】

		種目	施設名	駅圏域内	
				1km	500m
福島県	福島市	スーパー・SC等	ヨークタウン野田	○	
		スーパー・SC等	MAXふくしま	○	○
		スーパー・SC等	S-PAL福島	○	○
		スーパー・SC等	ドン・キホーテ福島	○	
		スーパー・SC等	コジマ	○	
		スーパー・SC等	カインズ福島鎌田店	○	○
		スーパー・SC等	ヤマダ電機		
		スーパー・SC等	イオン福島店		
		スーパー・SC等	コープマートやのめ		
		スーパー・SC等	カワチ薬品福島西店		
		スーパー・SC等	カワチ薬品鎌田店	○	
		スーパー・SC等	リオン・ドール鎌田店	○	
		スーパー・SC等	ダイユーエイト鎌田店	○	○
		スーパー・SC等	ザ・ビック鎌田店	○	○
		スーパー・SC等	ヨークベニマル福島鎌田店	○	
		スーパー・SC等	ヨークベニマル瀬上店	○	○
	伊達市	スーパー・SC等	ヨークベニマル伊達店		
		スーパー・SC等	ヨークベニマル梁川店	○	
		スーパー・SC等	コープふくしまコープマート保原	○	○
		スーパー・SC等	リオン・ドール保原店	○	○
		スーパー・SC等	コープふくしまコープマート梁川	○	
		スーパー・SC等	ヨークベニマル保原店	○	
		スーパー・SC等	スーパーセンタートライアル伊達保原店	○	
		スーパー・SC等	イオンモール伊達		
宮城県	角田市	スーパー・SC等	角田ショッピングセンター	○	
		スーパー・SC等	フレスコキクチ角田店		
		スーパー・SC等	ヤマザワ角田店		
		スーパー・SC等	A & C O O P 角田店		
		スーパー・SC等	ドラッグストアモリ 角田店	○	
		スーパー・SC等	ツルハドラッグ角田幸町店	○	○
	柴田町	スーパー・SC等	イオンタウン柴田		
		スーパー・SC等	イオン船岡店		
		スーパー・SC等	ヨークタウン柴田	○	
		スーパー・SC等	柴田ショッピングセンター・マルコ	○	○
	丸森町	スーパー・SC等	フレスコキクチ丸森		

表 主な商業施設（沿線に立地する1,000㎡以上の施設）一覧

【資料 7】

		種目	施設名	駅圏域内		各駅からの バス接続有無
				1km	500m	
福島県	福島市	病院	桜ヶ丘病院			福島駅
		病院	一陽会病院			福島駅
		病院	福島赤十字病院			福島駅
		病院	大原総合病院	○		福島駅
		病院	福島中央病院			福島駅
		病院	福島第一病院			福島駅
		病院	福島寿光会病院	○		
		病院	富士病院			福島駅
		病院	わたり病院			福島駅
		病院	村上病院			福島駅
		病院	明治病院	○		
		病院	板倉病院			福島駅
		病院	あづま脳神経外科病院			福島駅
		病院	福島西部病院			福島駅
		病院	しのぶ病院			福島駅
		病院	福島南循環器科病院			福島駅
		病院	大原総合病院附属大原医療センター	○	○	福島駅
		病院	南東北福島病院			福島駅
		病院	済生会福島総合病院			福島駅
		病院	福島県立医科大学附属病院			福島駅
	伊達市	病院	福島松ヶ丘病院			
		病院	北福島医療センター			福島駅、保原駅
宮城県	角田市	病院	金上病院			
		病院	仙南病院			
		病院	同済病院			
	柴田町	病院	仙南中央病院			
		病院	船岡今野病院			
	丸森町	病院	丸森病院			

表 医療施設一覧

【資料 8】

		施設名	駅圏域内	
			1km	500m
福島県	福島市	ニッセーデリカ福島工場	○	○
		内池醸造	○	
		福島ゴム	○	
		福島中央卸売市場	○	○
		高保製薬工業	○	○
		トーニチ	○	○
		同仁医薬化工福島工場	○	
		ダイナパック福島事業所	○	
		コープ食品東北工場	○	
	伊達市	平河ヒューテック		
		福島太陽誘電		
		富士通アイソテック	○	○
		王子コンテナ福島工場	○	
		太陽工業伊達工場	○	
		東洋製罐グループエンジニアリング福島工場	○	
		キューピータマゴ福島工場	○	○
		北海紙管福島工場	○	
		内外エレクトロニクス福島事業所	○	
		(株)ティエスエー 福島伊達工場	○	
		大和ハウス工業株式会社 DPL福島伊達	○	
		荏原フィールドテック 東北工場	○	
		生活協同組合パルシステム福島 パルシステム福島伊達センター	○	
		光洋精機株式会社 福島工場	○	
宮城県	角田市	アイリスオーヤマ(株)角田工場		
		ホーチキ(株)宮城事務所		
		Astemo(株)宮城第一工場		
		Astemo(株)宮城第三工場		
		Astemo(株)宮城第五工場		
		Astemo(株)宮城営業所		
		アルプスアルパイン(株)角田工場	○	○
		JAXA角田宇宙センター		
	柴田町	山崎製パン仙台工場	○	
		豊屋食品工業		
		東北リコー		
		仙台森紙業		
		陸上自衛隊船岡駐屯地		
	丸森町	竜興化学工業丸森工場	○	○
		城南鋼鉄工業東北工場	○	○

表 主な事業所一覧

【資料 9】

		種目	施設名	入込客数 (単位：人)	駅圏域内		備考（開催時期）
					1km	500m	
福島県	福島市	自然	あぶくま親水公園周辺	96,286			
		歴史・文化	花見山	88,286			
		歴史・文化	旧堀切邸	149,676			
		歴史・文化	県立美術館	60,005			
		歴史・文化	古閑裕而記念館	18,746			
		温泉・健康	飯坂温泉	680,220			
		都市型観光	福島県観光物産館	745,555	○	○	
		行祭事・イベント	福島わらじまつり	301,000	○	○	8月第一金～日曜日
		行祭事・イベント	福島花火大会	180,000			7月
	伊達市	自然	霊山	110,396			
		歴史・文化	霊山神社	11,831			
		スポーツ・レクリエーション	やながわ希望の森公園	27,358	○		
		スポーツ・レクリエーション	霊山こどもの村	48,471			
		スポーツ・レクリエーション	パーシモンカントリークラブ	67,340			
		温泉・健康	りょうぜん紅彩館	16,313			
		都市型観光	みらい百彩館「んめ～べ」	269,312			
		行祭事・イベント	伊達のふる里夏まつり	25,000	○	○	8月中旬
		行祭事・イベント	霊山太鼓まつり※1	17,000	○	○	8月下旬
		都市型観光	道の駅伊達の郷りょうぜん	1,618,030			
		自然	紅屋崎千本桜まつり	34,000			
宮城県	角田市	自然	手代木沼	5,482			
		歴史・文化	郷土資料館・高蔵寺等	20,317			
		歴史・文化	角田宇宙センター	10,802			
		歴史・文化	スペースタワー・コスモハウス	25,540	○		
		スポーツ・レクリエーション	屋内温水プール、総合体育館等※2	121,250			
		温泉・健康	天然温泉もみの木	55,738			
		都市型観光	道の駅かくだ	928,382			
		行祭事・イベント	かくだふるさと夏まつり	8,000			8月中旬
	柴田町	歴史・文化	船岡城址公園	383,787			
		スポーツ・レクリエーション	自然休養村 太陽の村	15,935			
	丸森町	歴史・文化	蔵の郷土館 齋理屋敷	9,892			
		スポーツ・レクリエーション	自然ゆうゆう館天水舎※3	4,370			
		スポーツ・レクリエーション	国民宿舎あぶくま荘	31,492			
		スポーツ・レクリエーション	不動尊公園	24,213			
		スポーツ・レクリエーション	阿武隈ライン舟下り	2,842	○		

※1：2024は台風により中止のため、入込客数は2023の実績。

※2：2022の実績

※3：2021の実績。

表 観光資源一覧

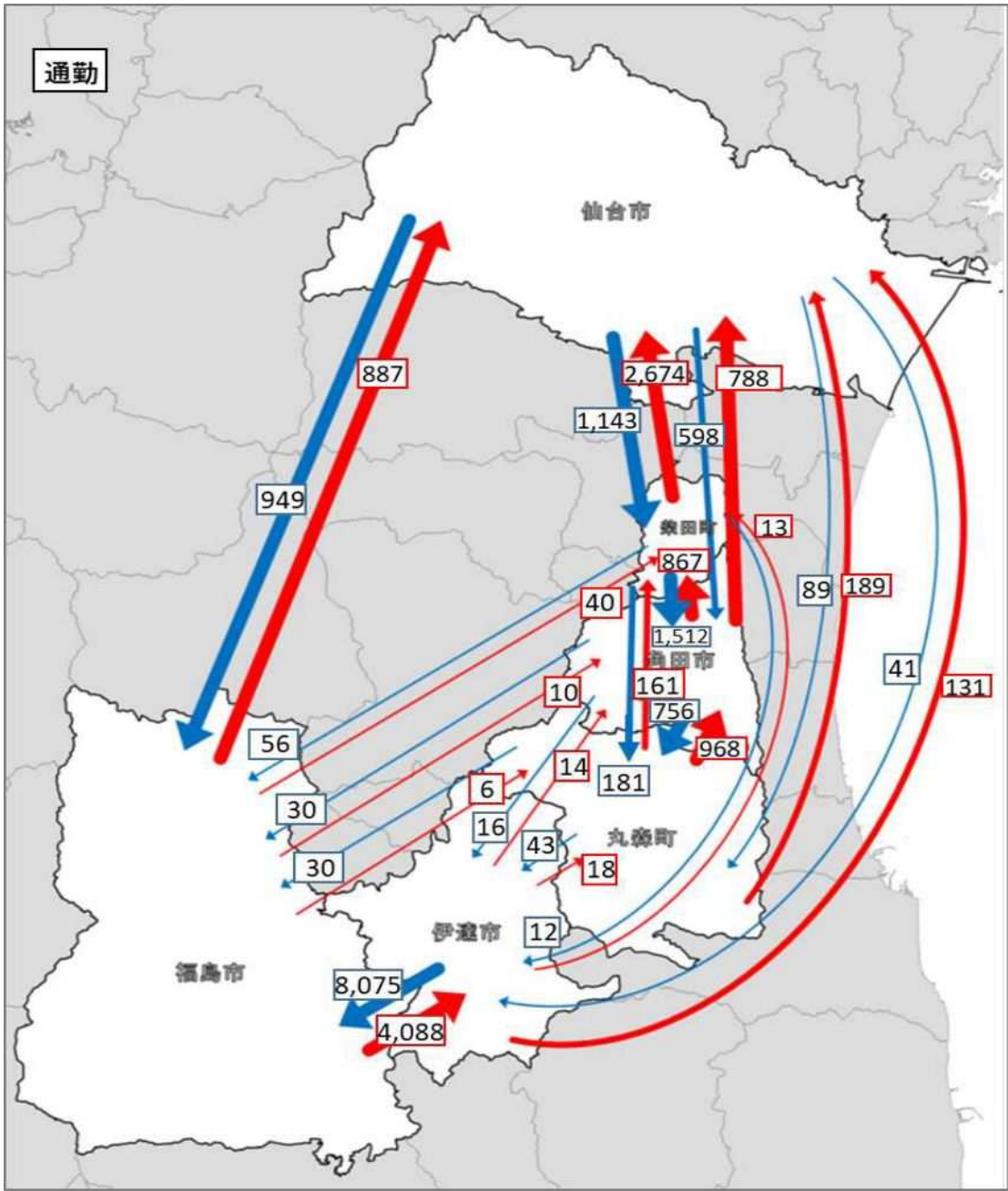


図 通勤流動図

資料：国勢調査（2020年／単位：人）

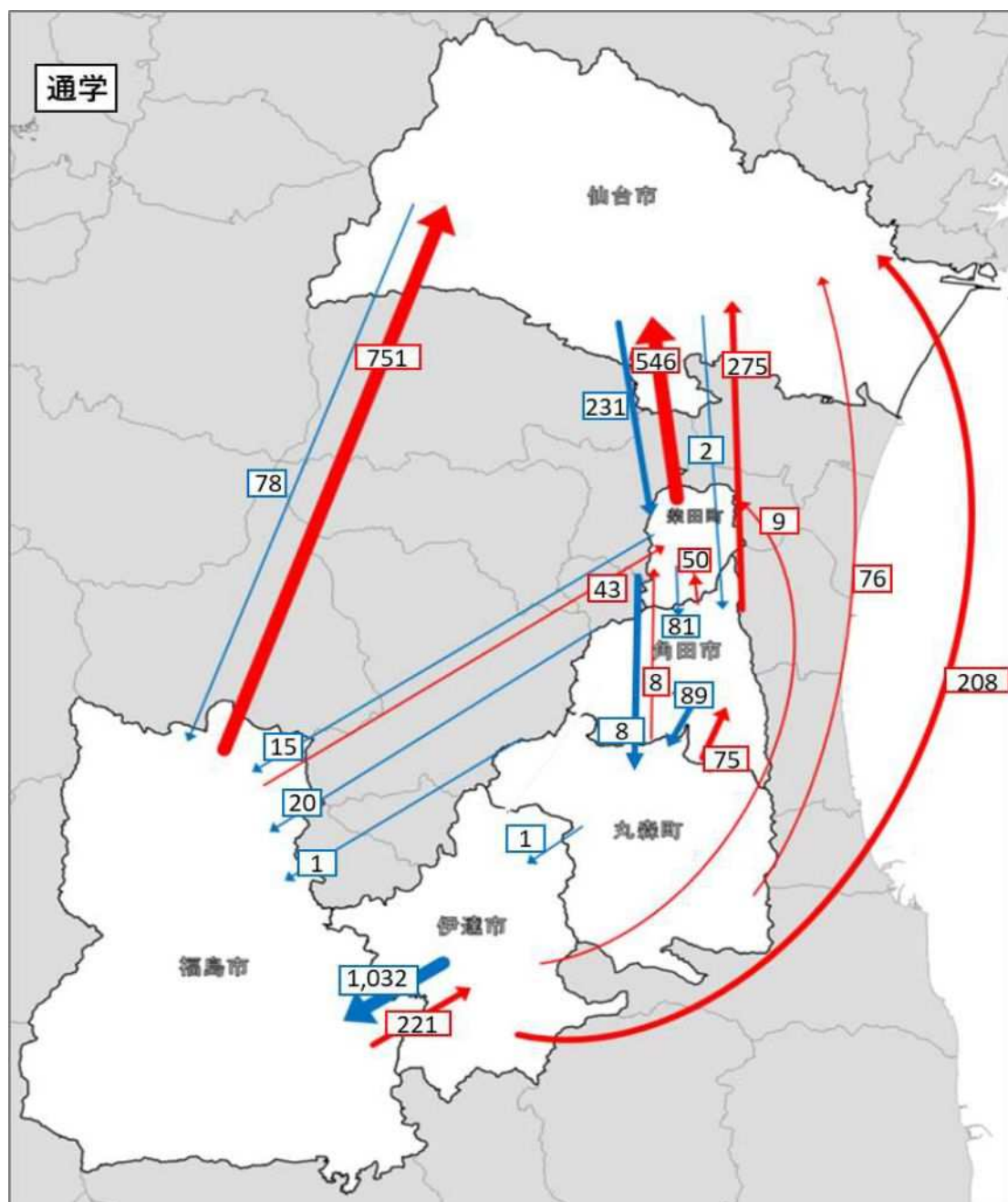


図 通学流動図

資料：国勢調査（2020 年／単位：人）

【資料 12】

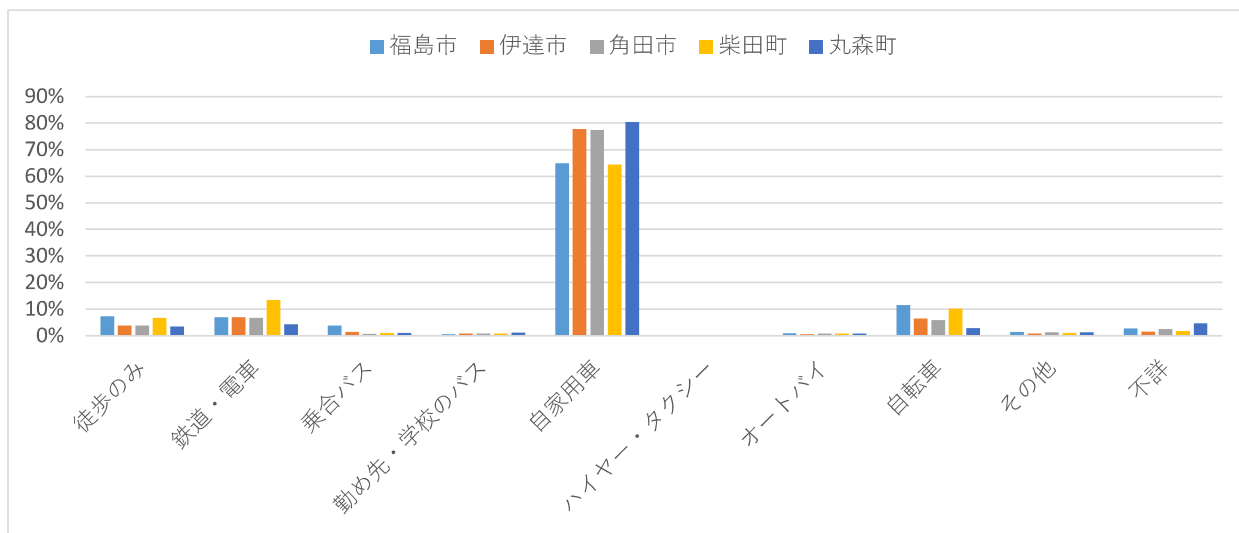


図 通勤・通学における利用交通手段

資料：国勢調査（2020 年）

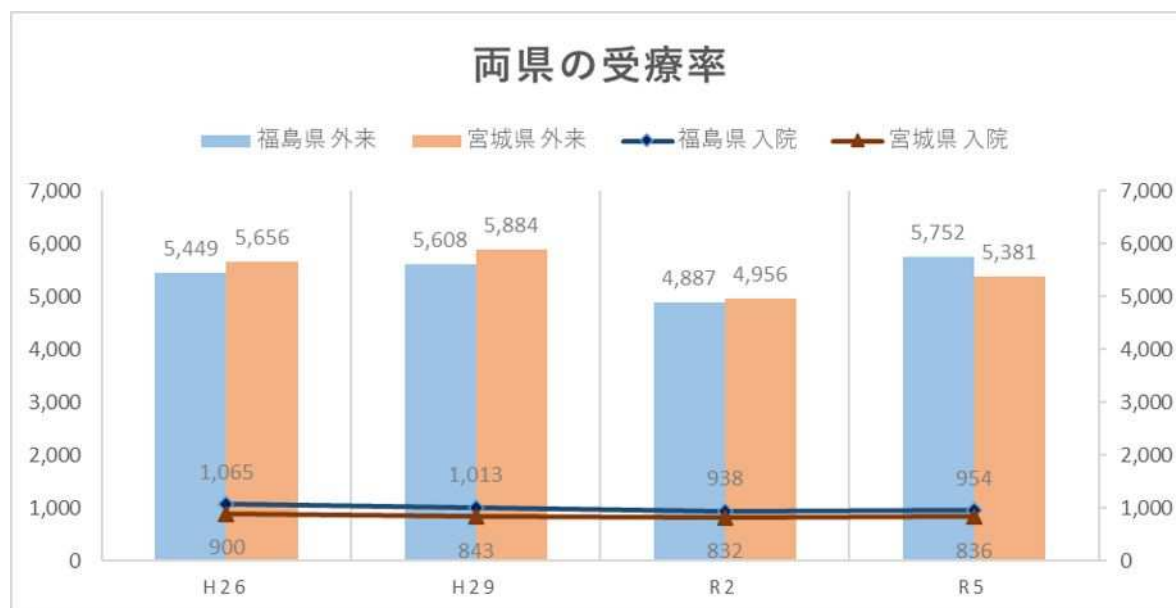
【資料 13】



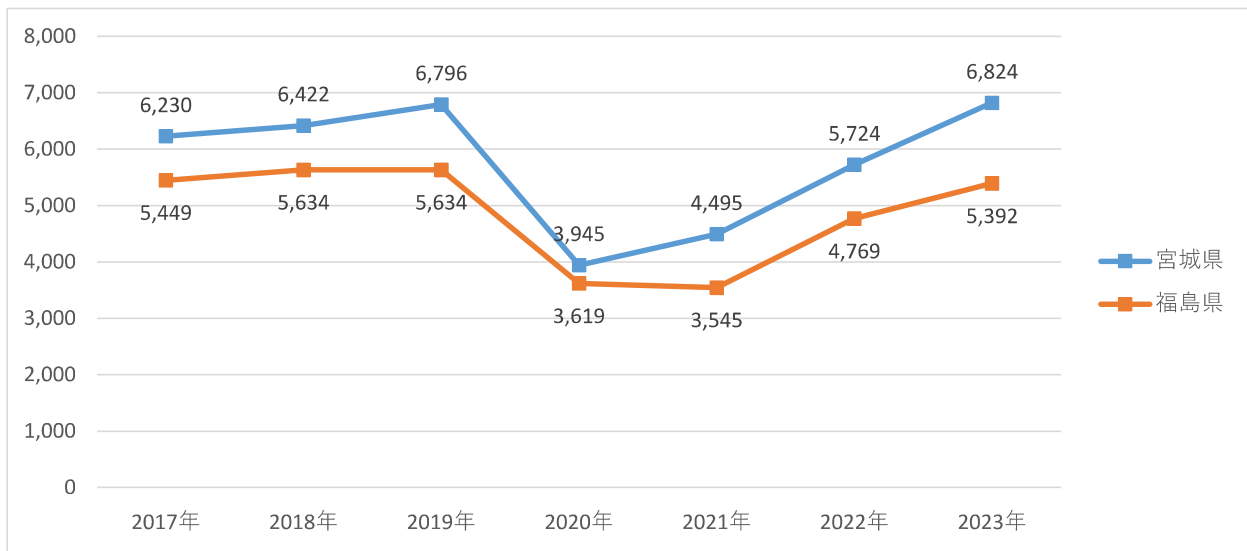
図 二次医療圏

資料：第 8 次福島県医療計画、第 8 次宮城県地域医療計画

【資料 14】



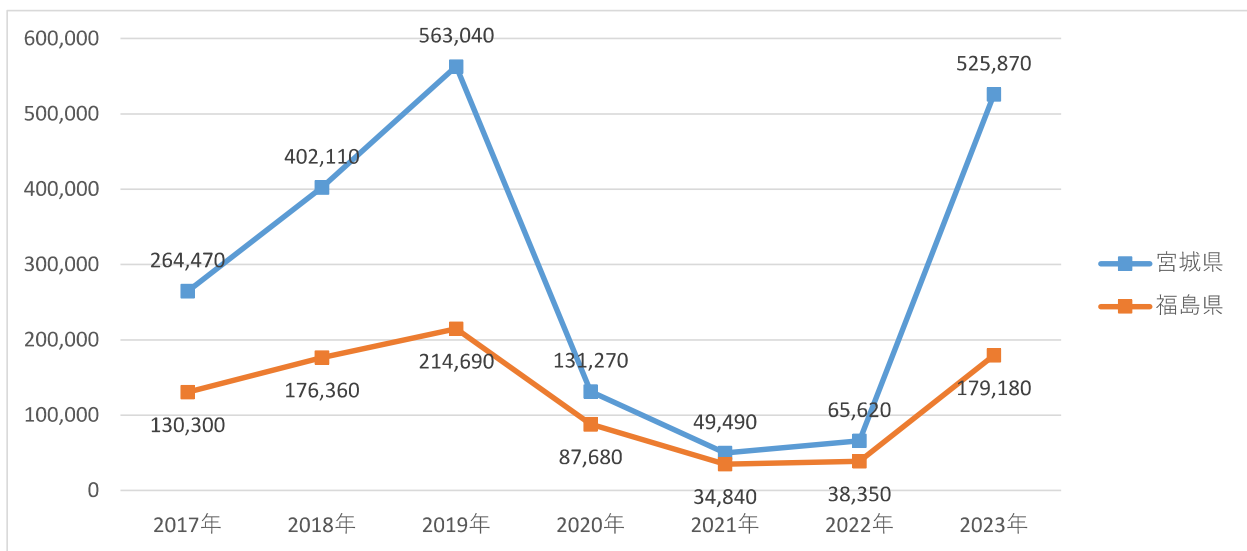
【資料 15】



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
宮城県	6,230	6,422	6,796	3,945	4,495	5,724	6,824
福島県	5,449	5,634	5,634	3,619	3,545	4,769	5,392
東北六県	24,269	25,110	25,285	15,505	16,538	20,780	23,527

資料：各県観光統計資料

図 観光入込客数の推移（延べ入込客数）



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
宮城県	264,470	402,110	563,040	131,270	49,490	65,620	525,870
福島県	130,300	176,360	214,690	87,680	34,840	38,350	179,180
東北六県	1,065,530	1,473,360	1,851,660	498,030	143,050	204,730	1,561,130

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査報告」

図 外国人延べ宿泊者数の推移

【資料 16】

上位計画：①福島県総合計画		
項目	内容	
策定主体	福島県	
計画期間	令和4年度～令和12年度	
基本目標	やさしさ、すこやかさ、おいしさあふれる ふくしまを共に創り、つなぐ	
目指す将来の姿 (30年後の将来像)	将来の姿	「ひと」「暮らし」「しごと」が調和しながらシンカ（深化、進化、新化）する豊かな社会
	県づくりの理念	●多様性に寛容で差別のない共に助け合う ●変化や危機にしなやかで強靱な ●魅力を見いだし育み伸ばす 地域社会（県）づくり
政策分野別の主要施策	ひと	・全国に誇れる健康長寿県へ ・結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり ・「福島ならではの」教育の充実 ・誰もがいきいきと暮らせる県づくり ・福島への新しい人の流れづくり
	暮らし	・東日本大震災・原子力災害からの復興・再生 ・災害に強く治安が確保されている安全・安心な県づくり ・安心の医療、介護・福祉提供体制の整備 ・環境と調和・共生する県づくり ・過疎・中山間地域の持続的な発展 ・ふれあいと親しみのある魅力あふれる県づくり
	しごと	・地域産業の持続的発展 ・福島イノベーション・コースト構想の推進 ・もうかる農林水産業の実現 ・再生可能エネルギー先駆けの地の実現 ・魅力を最大限いかした観光・交流の促進 ・福島の産業を支える人材の確保・育成 ・地域を結ぶ社会基盤の整備促進
公共交通に関する施策・事業の概要	公共交通機関の利活用促進に関する取組	地元自治体や関係団体等と連携しながら、公共交通機関の利活用の促進を図ります。
	生活交通の維持・確保に関する取組	県民生活の足の確保・維持を図るため、第三セクター鉄道の施設整備等を支援するほか、地域の状況に応じた交通対策事業に取り組む市町村やバス事業者を支援します。
	環境に配慮したライフスタイルの推進に関する取組	マイバッグ、マイボトル・マイカップの使用を始め、使い捨てプラスチック製品の削減に資する取組の啓発、資源化が可能なごみの分別や自転車、公共交通機関利用による通勤・通学への誘導など環境に配慮したライフスタイルの普及を推進します。

上位計画：②新・宮城の将来ビジョン		
項目	内容	
策定主体	宮城県	
計画期間	令和3年度～令和12年度	
宮城の将来像	震災からの復興を成し遂げ、民の力を最大限に生かした多様な主体の連携により、これまで積み重ねてきた富県宮城の力が更に成長し、県民の活躍できる機会と地域の魅力にあふれ、東北全体の発展にも貢献する、元気で躍動する宮城	
県政運営の理念	富県躍進！“PROGRESS Miyagi” ～多様な主体との連携による活力ある宮城を目指して～	
政策推進の基本方向	富県宮城を支える県内産業の持続的な成長促進	・産学官連携によるものづくり産業等の発展と研究開発拠点等の集積による新技術・新産業の創出 ・宮城が誇る地域資源を活用した観光産業と地域を支える商業・サービス業の振興 ・地域の底力となる農林水産業の国内外への展開 ・時代と地域が求める産業人材の育成と活躍できる環境の整備 ・時代に対応した宮城・東北の価値を高める産業基盤の整備・活用
	社会全体で支える宮城の子ども・子育て	・結婚・出産・子育てを応援する環境の整備 ・家庭・地域・学校の連携・協働による子どもを支える体制の構築 ・多様で変化する社会に適応し、活躍できる力の育成 ・安心して学び続けることができる教育体制の整備
	誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会づくり	・就労や地域活動を通じた多様な主体の社会参画の促進 ・文化芸術・スポーツ活動と生涯学習の振興 ・生涯を通じた健康づくりと持続可能な医療・介護サービスの提供 ・障害の有無に関わらず安心して暮らせる社会の実現 ・暮らし続けられる安全安心な地域の形成
	強靱で自然と調和した県土づくり	・環境負荷の少ない地域経済システム・生活スタイルの確立 ・豊かな自然と共生・調和する社会の構築 ・大規模化・多様化する災害への対策の強化 ・生活を支える社会資本の整備、維持・管理体制の充実
公共交通に関する施策・事業の概要	暮らし続けられる安全安心な地域の形成	・交通事業者等と連携した地域交通の維持や地域に適した柔軟な移動手段の普及支援

上位計画：③各市町の総合計画			
計画名	項目	内容	
第 6 次 福島市総合計画	策定主体	福島市	
	計画期間	令和 3 年度～令和 7 年度	
	まちづくりのための基本的な考え方	・福島らしさを生かした新ステージの形成 ・持続可能性の実現 ・多様性の尊重 ・県都としての責務 ・ポストコロナ時代を見据えた社会づくり	
	公共交通に関する施策・事業の実施	公共交通網の整備	人口減少や高齢化、モータリゼーションの進展、コロナ禍における移動手段の転換により公共交通利用者が減少する中、地域社会の変化に柔軟に対応するべく、持続可能な公共交通網の整備や交通結節点における施設の充実などの強化を図り、あらゆる世代が豊かで暮らしやすい地域社会の実現に努める。
伊達市第 3 次総合計画	策定主体	伊達市	
	計画期間	令和 5 年度～令和 1 4 年度	
	将来都市像	人と緑と歴史が結び合う ひかり輝く田園空間・伊達市	
	まちづくりの基本姿勢	①「若者の定着と還流」を促す ②「緑と歴史文化」とともに生きる ③「未来を拓く子ども」を大切にする ④「すべての人の健幸」を築く ⑤「人と人とのつながり」を大切にする	
	公共交通に関する施策・事業の概要	公共交通の充実	「伊達市地域公共交通計画」及び「伊達市地域公共交通利便増進実施計画」に基づき、デマンド交通をはじめ市民ニーズを踏まえた路線やダイヤの見直し、連携・接続の充実、公共交通網の再編に向けた取組を推進し、利便性を向上させる。
伊達市第 2 次健幸都市基本計画	策定主体	伊達市	
	計画期間	令和 5 年度～令和 1 4 年度	
	基本理念	(1) 健康が地域の活力となる健幸意識のまち (2) 人々が絆で結び合う市民協働のまち (3) 心身の健康が守られる安全・安心なまち	
	健幸都市の将来像	豊かな自然の中で みんなが歩いて健幸になれるまち・伊達市	
	公共交通に関する施策・事業の概要	デマンド交通の運行支援 鉄道やバスの運行支援	・鉄道やバスでは対応できない市民の移動ニーズに対応し、市民の外出機会を促進するため、利用しやすいデマンド交通の運行を支援する。 ・日常生活に必要な公共交通の利便性向上のため、鉄道やバスの運行支援や路線見直し等を推進する。 ・駅前周辺の整備や維持保全に努め、鉄道・バスの利用促進を図る。

第 6 次 角 田 市 長 期 総 合 計 画	策定主体	角田市	
	計画期間	令和 4 年度～令和 1 3 年度	
	目指す 都市像	「市民力咲き誇る。角田市🌸～安心して、いきいきと、誇らしく暮らせるまち～」	
	まちづくり の基本理念	・ 将来を見据え人を育み、活かすまちづくり 【市民力】 ・ とともに生き、活かすまちづくり 【地域共生】 ・ 地域資源を活かすまちづくり 【地域資源フル活用】	
	公共交通に 関 する 施 策・事業の 概要	公共交通シ ステムの存 続・利便性 向上	・ 阿武隈急行線を利用した際の運賃助成やイベント列車の運行により、利用者数の回復を図る。 ・ 各種イベント時にシャトルバスを運行するなど、イベント来場者の移動を支援する。 ・ デマンド型タクシーの定期的な周知を図り、利用者の確保に努めるとともに、アンケート等により市民の要望を把握し、より多くの市民に利用いただける仕組みをつくる。 ・ 変わりゆく交通需要に応えるため、スクールバスの活用も視野に入れた検討を行う。 ・ 経営改善に取り組む阿武隈急行線に対し、沿線自治体と協調し経営安定化に資する支援を行う。
第 6 次 柴 田 町 総 合 計 画	策定主体	柴田町	
	計画期間	平成 31 年度・令和元年度～令和 8 年度	
	まちづくり の基本理念	・ 住民が安全に、安心して暮らせるまちづくり ・ 住民の一人一人が個人として尊重され、住民の思い及び活動が活かされるまちづくり ・ 先人が築いてきた文化、伝統等を大切に、地域の個性を生かしたまちづくり ・ 多様な団体及び個人が交流し、又は連携し、住民がお互いに助け合う思いやりのあるまちづくり ・ 住民であることの誇り及びまちの良さを子どもたちに引き継ぐまちづくり	
	まちの 将来像	「笑顔があふれ 誇りと愛着を育む 花のまち」	
	公共交通に 関 する 施 策・事業の 概要	デマンド 型 乗 合 タ ク シー 運 行 へ の 支 援	デマンド型乗合タクシーの利用者の利便性向上に向けて、予約方法や運行体制の見直し、町外への運行などについて、運行主体である柴田町商工会と引き続き連携し、検討を進めます。
		阿 武 隈 急 行 線 へ の 対 応	宮城・福島両県及び沿線自治体と連携し、老朽化により緊急整備を要する施設や車両等について支援を継続するとともに、経営環境が年々厳しくなる阿武隈急行線の今後の在り方、沿線住民及び観光利用客等による利用の促進に向けて関係自治体と協議する。

第 6 次 丸 森 町 総 合 計 画	策定主体	丸森町
	計画期間	令和 7 年度～令和 16 年度
	基本指針 (将来像に 向けた考え 方)	・安心して日々を過ごせるあたらしい環境を、つくろう ・故郷への誇りを育てるあたらしい習慣を、つくろう ・夢や憧れへ挑戦できるあたらしい機会を、つくろう
	基 本 理 念 (目指すべ き将来像)	DESIGN NEW MARUMORI つくろう、あたらしい日常を。 誰かに与えられるまで待つのではなく、みんなで考えて、つくる。 自分で行動することで夢の実現を目指す。
	公共交通に 関 する 施 策・事業の 概要	丸森町阿武隈急行線利用促進協議会と連携し、丸森駅で快適に過ごせる環境を整備する。 駅や電車内を利用したイベント等を町民や民間事業者の提案により実施することで、マ イレール意識を醸成し、多くの人が集まる場所と機会を作る。 町民バス及び白石市民バスの運行、デマンド交通である「あし丸くん」により、町民等の 移動手段を確保するとともに観光に訪れた方の二次交通を整備する。

都市づくりの方向性：都市計画区域マスタープラン			
計画名	項目	内容	
県北都市 計 画 区 域 マ ス タ ー プ ラ ン	策定主体	福島県	
	策定期限	令和 5 年 7 月	
	基本理念	「都市と田園地域等の共生」	
	基本方針	・ 都市と田園地域等が共生する都市づくり ・ 地域特性に応じたコンパクトな都市づくり ・ ひと・まち・くるまが共生する都市づくり	
	公共交通に関 する内容	広域的な 連携軸の 強化	本都市計画区域の交通網は、県内及び県外の主要都市を連絡する国県道等の道路網、J R や阿武隈急行の鉄道網が多く結節しているため、今後とも道路交通と鉄道等の公共交通との役割分担を図りながら、これらを体系的に整備していくとともに、本都市計画区域内の都市間相互の連結強化を図ることを基本方針とする。
		交通結節 機能の強 化	東北新幹線、山形新幹線、東北本線、奥羽本線、福島交通飯坂線及び阿武隈急行線により、都市内軌道交通の強化を促進するとともに、これら鉄道との交通結節機能を向上させる駅前広場の充実を図る。
		駅前広場	高子駅周辺の交通結節機能の強化のため、駅前広場を位置づける。
		自転車駐 輪場	自転車利用の一層の利用促進を図るため、公共交通と連携した駅周辺への駐輪施設の配置等を検討する。
	拠点の位置 づけ	圏域拠点 (都市拠 点機能)	福島駅周辺
		地域拠点	保原駅周辺
		生活拠点	染川駅周辺

仙南広域 都市計画 マスター プラン	策定主体	宮城県	
	策定期間	令和2年2月	
	将来像	蔵王連峰に抱かれた地域資源を活かして、圏域内外の人と文化が交流し、安心して住み続けられる広域生活圏の形成	
	都市づくりの 基本的な方向 性	都市間の交流、資源の共有により、個性豊かな都市が連携する一体的な都市圏づくり	・圏域間及び都市間における交流促進 ・公共交通サービスの維持・確保 ・地域資源の共有、公共施設などの効率的配置
		広域交通の利便性、美しい自然環境と歴史・文化を活かした魅力ある産業地づくり	・地域の役割に応じた商業地形成 ・広域交通利便性を活かした工業地形成 ・豊かな自然環境、歴史・文化を活かした周遊型観光地形成
		災害に強く、生活サービス機能が集約した、安全で質の高い暮らしやすい生活空間づくり	・大規模災害対策の拡充 ・良好で暮らしやすい住環境の形成 ・生活利便性の向上、都市経営の健全化
	公共交通に関する内容	公共交通サービスの維持・確保	・地域住民の身近な移動手段である路線バスの廃止が問題となるなか、超高齢社会においては、公共交通の需要が高まることを予測されること、また、通勤・通学などの日常生活や広域観光においても公共交通は欠かすことのできない移動手段であることから、鉄道駅を公共交通結節の拠点として位置づけ、道路による都市間ネットワークの整備と合わせて、バス経路の見直しや運行水準の確保など、都市間公共交通の維持、向上を図る。 ・山間部が大きな割合を占める本区域では、鉄道や路線バスのみで日常生活に必要な公共交通のサービス水準を満たすことは困難であることから、コミュニティバスやデマンドタクシーなどと連携し、地域の実情に応じた身近な公共交通サービスを確保する。

都市づくりの方向性：各市町の都市計画マスタープラン等			
計画名	項目	内容	
福島市都市マスタープラン	策定主体	福島市	
	策定期期	平成29年3月	
	基本理念	みんなが誇れる県都ふくしまの創造	
	目指す都市像	・安全で安心して住み続けられる都市 ・豊かな自然や歴史・文化などを生かし、地域の個性や活力を育む、市民が誇れる都市 ・県都として人々が集い、にぎわい、交流する都市	
	公共交通に関する内容	子どもから高齢者まで利用しやすい公共交通環境の充実	公共交通機関の利用を促進するため、交通事業者との連携により駅舎やバス停・車両等の交通施設のユニバーサルデザインの視点に立ったバリアフリー化など施設整備を推進し、交通システムの充実を図る。 公共交通機関の利用を促進するため、駅へのアクセスの向上、自転車駐車場の整備、鉄道・バス等と相互の連携強化など、高齢者等に配慮した公共交通手段の充実を検討する。
		地域が支える公共交通システムづくり	高齢化社会を見据え、自家用自動車利用から公共交通への利用転換に向けての啓蒙活動を推進するとともに、地域内を走るバス・タクシーの効率的な運行に努め、公共交通の利用促進を図る。 地域の実情に応じた交通手段や地域との協働による持続可能な公共交通のあり方について検討を進める。
	北信地区のまちづくり方針	土地利用の方針	北信支所や東北本線東福島駅及び阿武隈急行線卸町駅・福島学院前駅・瀬ノ上駅周辺地域は、住民の日常生活を支える地域生活拠点として、都市機能の充実を図る。
道路・交通の方針		鉄道利用の促進を図るため、駅前広場や自転車駐車場の整備、踏切改良について検討するとともにバスとの連携強化を図る。	

北信地区まちづくり方針図

福島市立地適正化計画

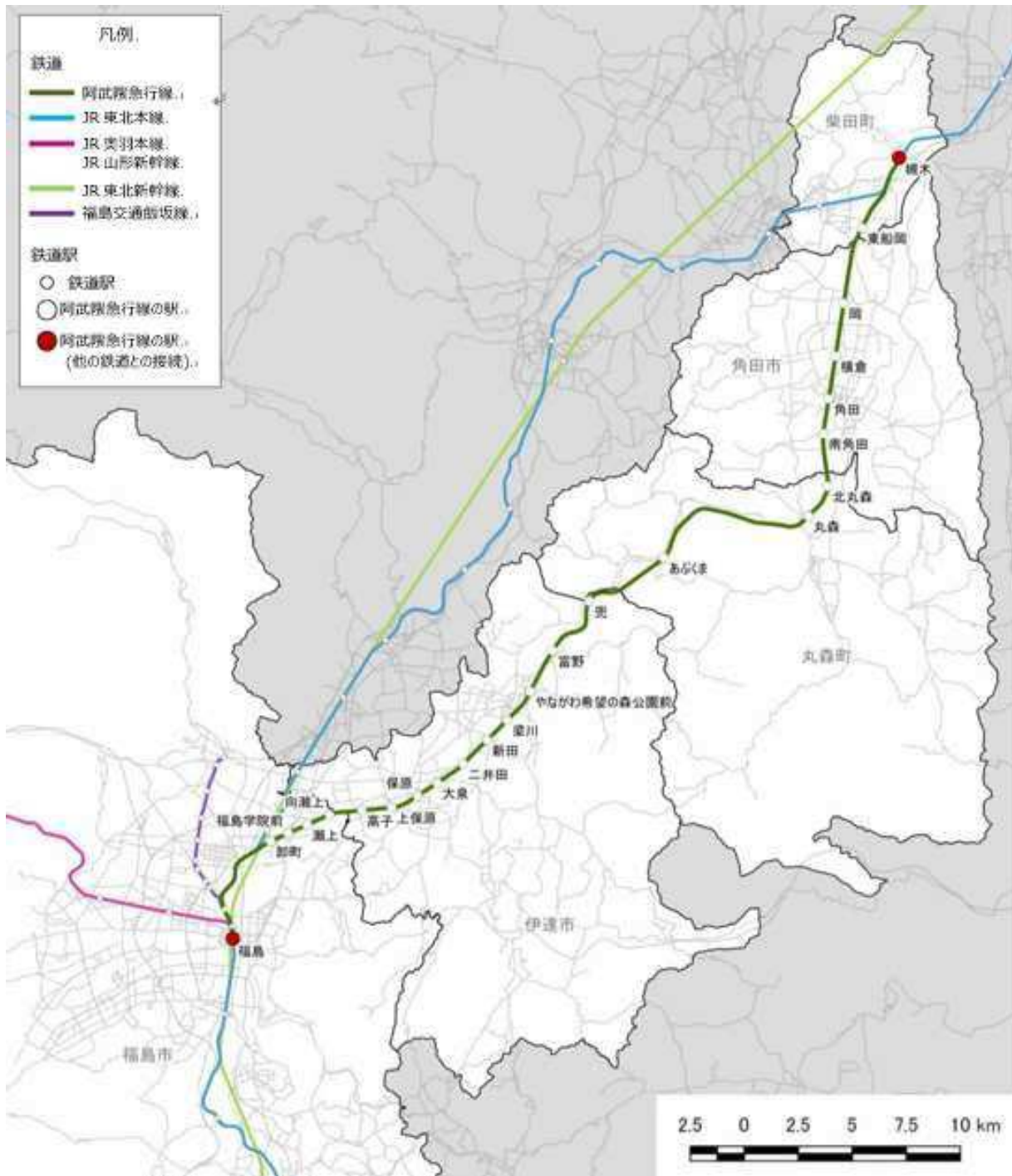
策定主体	福島市													
策定期期	平成31年3月（令和7年3月改定）													
福島市が目指すまちづくりの方向性	・利便性の高いコンパクトな拠点市街地の形成 ・各地域の均衡ある発展に向けたネットワーク型の都市構造の形成													
都市機能区域の設定	福島市都市マスタープランで位置づけられている中心拠点、地域生活拠点のうち、公共交通でのアクセス性が高い区域で、かつ、高次都市機能が一定程度充実している区域。													
居住推奨区域の設定	居住推奨区域	これまで構築してきた都市基盤の有効活用を図り、効率的な都市運営による持続可能な都市づくりを目指す区域												
	歩いて暮らせるまちづくり骨格エリア	車を運転しない方々についても買い物や通院、公共施設利用などの高次都市機能のサービスが利用しやすいエリア												
	市街化区域 居住推奨区域 工業専用地域（工業専用地域と非利用されている区域を含む） 土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域 地区計画のうち、住居の建築が制限されている区域 市域界 都市計画区域 市街化区域 市街化調整区域 <table><thead><tr><th>区 分</th><th>区域面積</th><th>市街化区域に対する面積割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>市 街 化 区 域</td><td>5,043ha</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>うち、居住推奨区域</td><td>4,596ha</td><td>91.1%</td></tr><tr><td>うち、都市機能区域</td><td>333ha</td><td>6.6%</td></tr></tbody></table> ※ 都市機能区域、居住推奨区域面積はGISによる図上求積値		区 分	区域面積	市街化区域に対する面積割合	市 街 化 区 域	5,043ha	100.0%	うち、居住推奨区域	4,596ha	91.1%	うち、都市機能区域	333ha	6.6%
	区 分	区域面積	市街化区域に対する面積割合											
市 街 化 区 域	5,043ha	100.0%												
うち、居住推奨区域	4,596ha	91.1%												
うち、都市機能区域	333ha	6.6%												
誘導施策	持続可能な公共交通網の整備	市民・事業者・行政が一体となり、公共交通施策と連携し、持続可能な公共交通網の整備を進める。												
	公共交通の利用促進	公共交通機関の利用を促進するため、公共交通施策と連携し、駅へのアクセスの向上、自転車駐車場の整備、鉄道・バス等と相互の連携強化など、高齢者等に配慮した公共交通手段の充実を検討する。高齢化社会を見据え、自家用自動車利用から公共交通への利用転換に向けての啓蒙活動を推進するとともに、地域内を走るバス・タクシーの効率的な運行に努め、公共交通の利用促進を図る。												

伊達市都市計画マスタープラン	策定主体	伊達市		
	策定期期	平成２７年度		
	将来像	健幸と個性が創る 活力と希望あふれる故郷 伊達市		
	まちづくりの基本理念	地域が人を育て、人が地域を育てるまち 伊達市らしさを大切に守り人が輝くまち 新たな人材や価値を生み出す創造のまち		
	公共交通に関する内容	鉄道駅の交通結節点の機能強化	JR 東北本線伊達駅や阿武隈急行線の各駅周辺において、需要を見極めながら駅前広場や駐車場、駐輪場の改善整備を推進し、交通結節点の機能強化を図り、公共交通機関利用を促進する。	
		パーク＆ライド等の推進	公共交通機関の利用促進環境に立ち遅れがみられる駅周辺において、駅周辺の駐車場・駐輪場を活用したパークアンドライドサイクルアンドライドなど、鉄道と自動車等利用の乗り換えシステムの確立を推進し、公共交通機関の利用促進を図る。	
		阿武隈急行線の利用促進	周辺市町や関係団体と連携し、鉄道事業者に対して運行体制の充実などを働きかけるとともに、駅前広場の充実、パークアンドライド※駐車場の整備等により利用者の利便性向上を図る。 阿武隈急行線はローカル電車としての魅力を持っており、観光 PR による鉄道利用の促進、サイクルトレイン※の実施など、観光利用の促進に努める。	
	拠点の位置付け	新たな都市機能の誘導拠点	高子駅周辺	
		中心都市拠点	保原駅周辺、梁川駅周辺	
		産業拠点	保原駅周辺	
観光・レクリエーション拠点		大泉駅周辺		
角田市都市計画マスタープラン	策定主体	角田市		
	策定期期	令和６年度		
	将来像	市民力咲き誇る。角田市❀～安心して、いきいきと、誇らしく暮らせるまち～ 将来を見据え人を育み、活かすまちづくり 【市民力】 ともに生き、活かすまちづくり 【地域共生】 地域資源を活かすまちづくり 【地域資源フル活用】		
	都市づくりの基本理念	□誰もが安全・安心・快適に住み続けることができる都市づくり □拠点を核とした持続可能な都市づくり □多様な地域資源を活かした魅力的な都市づくり		
	公共交通に関する内容	鉄道の利用促進	・多くの市民や来訪者の広域的な移動を支える阿武隈急行線については、引き続き積極的な利用促進による機能の維持に取り組む。また、関係機関との連携・協働を図りながら、利用者のニーズを踏まえ、交通結節拠点としての機能拡充や将来的な鉄道の利便性向上を見据えた方策を検討する。 ・長期的な公共交通網の維持・確保に向けて、鉄道事業者と連携しながら、運賃助成事業や IC カードの導入など、多様な利用促進策を検討しながら、モビリティ・マネジメントによる阿武隈急行線の利用促進に取り組む。	

		公共交通システムの最適化	・デマンド型乗合タクシー「ラビットくん」については、引き続き事業者などの関係機関との協議を図りながらサービスの維持を目指す。また、利用状況などの調査や事業の検証を継続して実施し、住民ニーズを踏まえた更なる利便性の向上とモビリティ・マネジメントによる利用促進に取り組む。 ・通院時のタクシー料金を助成する「みやぎ県南中核病院通院等タクシー利用助成事業」などを活用し、市外の主要な医療機関の利用などのニーズに応じた移動手段の提供に努めるとともに、広域的な公共交通システムのあり方を検討する。 ・人口減少や高齢化社会における地域の移動ニーズにきめ細やかに対応するため、「地域公共交通計画」の策定を検討する。 ・誰もが移動しやすい環境づくりの実現に向けて、ICT や IoT などの先進技術を活用した新たな公共交通システムの導入を検討する。
	拠点の位置付け	街なか交流拠点・賑わいの交流拠点 産業拠点	角田駅周辺

公共交通に関する計画等		
計画名	項目	内容
福島市地域公共交通計画	策定主体	福島市
	計画期間	令和５年度～令和９年度
	基本理念	人・まちをつなぎ、にぎわいを運ぶ、未来へとつながる 公共交通体系の確立
	基本方針	基本方針１ 誰もが利用しやすく、地域の暮らしを支える公共交通の構築 基本方針２ 都市の交流・活力・魅力向上に資する公共交通の構築 基本方針３ 安全安心で持続可能な公共交通の構築
伊達市地域公共交通計画	策定主体	伊達市
	計画期間	令和３年度～令和７年度
	基本理念	～健幸・まちの賑わい・多核ネットワーク型都市構造を創り上げる～ 市民の日常生活を支える持続可能な地域公共交通の提供
	基本方針	基本方針１ 健康で幸せな生活を支えるため、それぞれのライフステージにおける多様な移動を支える公共交通網を実現する。 基本方針２ まちの賑わいを支えるため、市民や交流者の誰もが分かりやすく、使いやすい地域公共交通網を実現する。 基本方針３ 多核ネットワーク型都市構造を創るため、地域間の交流・連携軸を構築する。 基本方針４ 行政・事業者・市民等が理解・納得して皆で支え・育てる持続可能な地域公共交通を提供する。

【資料 17】



【資料 18】

表 阿武隈急行線の駅と接続するバス路線

駅名	バス路線	起点	経由地	終点
福島駅	福島交通	藤田	福島駅東口	桑折駅前
		桑折	福島駅東口	瀬上中央
		伊達	福島駅東口	瀬上中央
		伊達經由保原	福島駅東口	伊達長岡
		上ヶ戸經由掛田	福島駅東口	上ヶ戸
		月の輪經由梁川	福島駅東口	月の輪
		月館經由川俣	福島駅東口	月館
		大波經由掛田	福島駅東口	文知摺
		伊達經由湯野	福島駅東口	伊達長岡
		医大經由二本松	福島駅東口	医大病院・金谷川
		医大立子山經由飯野	福島駅東口	医大病院
		医大經由南相馬	福島駅東口	医大病院・川俣営業所
		原田東	大原総合病院	稲荷田
		中野	大原総合病院	信陵中学校
		志田	大原総合病院	八島田
		南沢又經由北沢又	大原総合病院	玄場
		市役所・由添団地經由庭坂	市役所前	由添団地
		大原総合病院・由添団地經由庭坂	大原総合病院	由添団地
		試験場經由庭坂	大原総合病院	運転免許センター
		上姥堂	大原総合病院	二子塚
		上姥堂經由高湯温泉	大原総合病院	上姥堂
		土船	大原総合病院	北島
		土湯	福島駅東口	佐倉
		荒井	福島駅東口	佐倉
		佐原	福島駅東口	佐倉
		佐原經由四季の里	福島駅東口	佐原
		平田	福島駅東口	大森
		鳥川	福島駅東口	大森
		宮代団地	福島駅東口	本内
		美郷經由松川	福島駅東口	医大病院・美郷一丁目
		清水町經由医大	福島駅東口	清水町
		蓬萊小經由大笹生・医大	道の駅ふくしま	弁天橋・蓬萊小学校
		御山經由イオン福島	大原総合病院	清水学習センター
		福島・飯野	福島駅東口	舟場町
		東浜町	福島駅東口	成蹊高校
		ヘルシーランド經由東浜町	福島駅東口	ヘルシーランド
		森合団地	大原総合病院	正眼寺
		市内循環もありん1コース太田町回り	福島駅東口	太田町・上町
		市内循環もありん1コース大町回り	福島駅東口	上町・県立美術館入口
		市内循環もありん2コース菅根田回り	福島駅東口	県立美術館入口
		桜台經由蓬萊団地	福島駅東口	桜台
		渡利南回り	福島駅東口	花見山入口
		月の輪合団地	福島駅東口	砂入
		蓬萊団地	福島駅東口	蓬萊東
		南バイパス經由蓬萊団地	福島駅東口	弁天橋
		蓬萊スクール循環	蓬萊西口	福高前・弁天橋
		蓬萊小經由医大	福島駅東口	弁天橋・蓬萊小学校
		蓬萊小經由庭坂・医大	庭坂荒町	弁天橋・蓬萊小学校
		バイパス經由南向台団地	福島駅東口	鳥谷野入口
		渡利經由南向台団地	福島駅東口	わたり病院前
		信夫山循環 4号線先回り	福島駅東口	本内・稲荷田
		信夫山循環 13号線先回り	福島駅東口	稲荷田・本内
		南向台循環黒岩先回り	福島駅東口	鳥谷野入口
		南向台循環渡利先回り	福島駅東口	わたり病院前
		メロディーバス（平日ルート）	福島駅東口	成蹊高校・橋高前
		メロディーバス（土日祝ルート）	福島駅東口	浜田町
		伏拝經由医大	福島駅東口	伏拝
		南沢又經由荒古屋	大原総合病院	工業高校前・北沢又
		済生会病院	福島駅東口	大森
		田町	福島駅東口	本内
		道の駅ふくしま經由中野	大原総合病院	道の駅ふくしま・信陵中学校
		伏拝・医大經由福島大学	福島駅東口	伏拝・医大病院
		由添団地	由添団地	野田
		川俣高校前	福島駅東口	伊達藤田
保原駅	JRバス東北			
高子駅	福島交通	上ヶ戸經由掛田	福島駅東口	上ヶ戸
		伊達經由保原	福島駅東口	伊達長岡
梁川駅	福島交通	月の輪經由梁川	福島駅東口	月の輪
丸森駅	丸森町民バス	大内線	角田ターミナル	丸森駅・丸森病院
		大耕線	丸森病院前	大張まちづくりセンター前・丸森駅
		脇曲線	キャンプ場入口	丸森病院・伊具高校
		ウィークエンドバス るるん号(4月～11月)	丸森駅	観光交流センター

表 阿武隈急行線の駅と接続するバス路線

【資料 19】

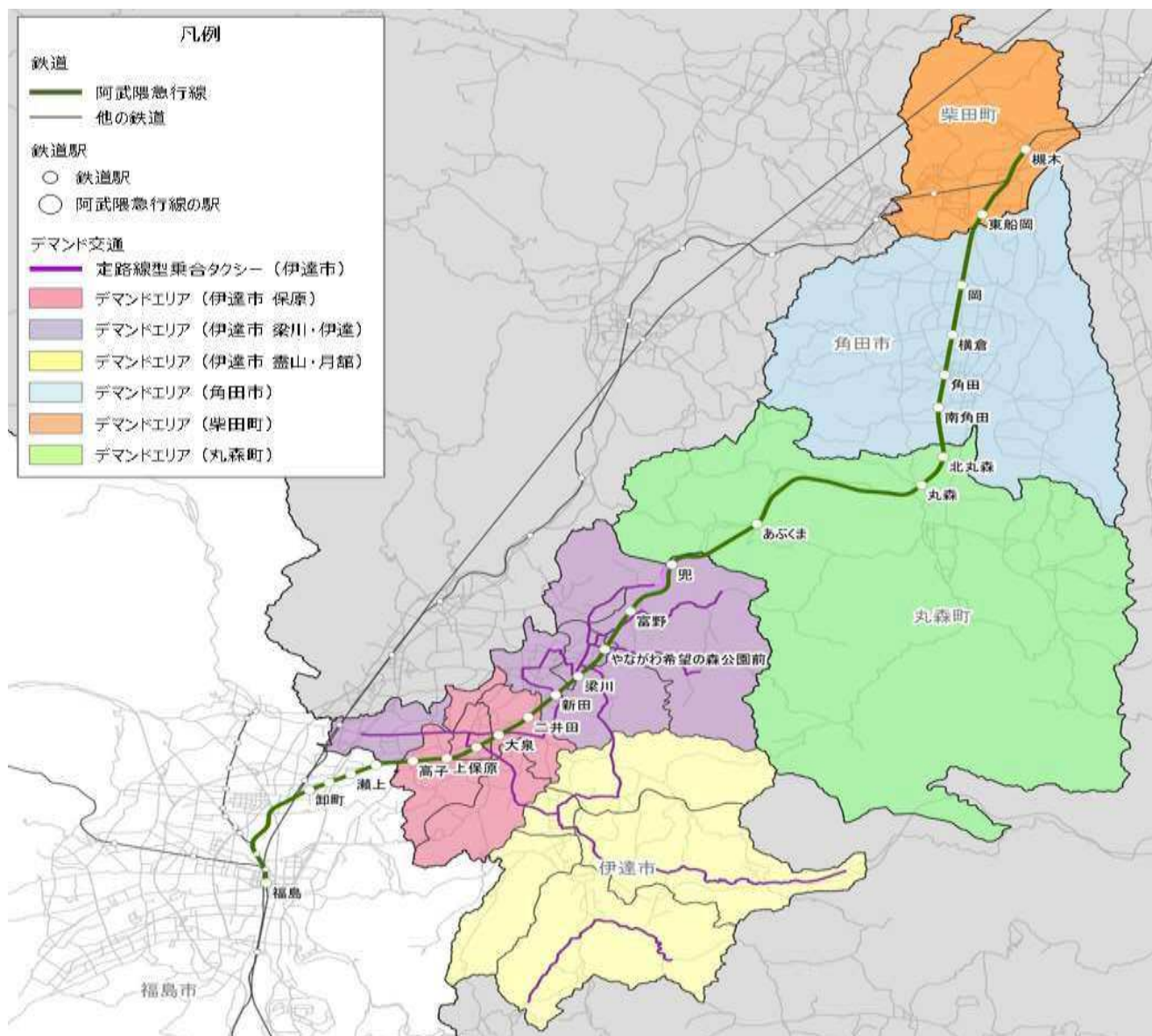


図 デマンド交通エリア

地域	愛称	対象者	料金				運行日	運営 主体	
			大人	小学生	小学生 未満	障がい者			
伊達市	ほばら まちなかタクシー (のってみっカー)	利用 登録者	300 円 (まちなかエ リアは 200 円)	—	—	伊達市障がい者 タクシー料金助成 事業に適応 (H29.7 月～)	月～金	保原町 商工会	
	霊山・月舘 まちなかタクシー		300 円 (一部定路線 は 200 円)	半額	1 名無料 (2 名以上は 小学生料金)			伊達市 商工会	
	梁川・伊達地域 まちなかタクシー		300 円					伊達市 商工会	
	角田市		ラビットくん	400 円	200 円			福祉割引適用※	角田市
	柴田町		はなみちゃん GO	300 円	150 円	無料		150 円	柴田町
丸森町	あし丸くん	町民利用 登録者	300 円	200 円	無料	200 円		丸森町	

表 デマンド交通概要

※角田市の福祉割引適用範囲

生活保護受給世帯、身体障がい者(1 級～3 級)、知的障がい者、精神障がい者

【資料 20】

		福島	高子	保原	梁川	丸森
阿武隈急 行発	路線バス コミュニティバス	190	38	32	31	25
	デマンド				5	
阿武隈急 行着	路線バス コミュニティバス	299	38	22	34	25
	デマンド				7	

表 阿武隈急行線の駅と接続する路線バスとデマンド交通の本数(平日)

【資料 21】

事業者名	所在地域	車両数
マルイチ新福島自動車(株)	福島市吉倉字万田	—
福島貸切辰巳屋自動車(株)	福島市北町	—
本田タクシー(株)	福島市太平寺字毘沙門堂	—
大和自動車交通(株)	福島市入江町	—
(株)マルイチ福島交通	福島市御山字中屋敷	—
(有)文知摺タクシー	福島市岡部字上条	—
吾妻観光(有)	福島市笹木野字内畑	—
大森貸切自動車(有)	福島市大森字南中道	—
(有)共和交通	福島市入江町	—
福島タクシー(株)	福島市成川字西谷地	—
こだま交通(有)	福島市小倉寺字中ノ内	—
(株)北福島タクシー	福島市南矢野日字桜内	—
(株)やさしいたのしいうれしい	福島市飯坂町平野字中ノ檀	—
(有)荒井タクシー	福島市荒井字高土手	—
(有)松川観光タクシー	福島市松川町字本町	—
(有)カネハチタクシー	福島市松川町浅川字笠松	—
ファミリー観光(株)	福島市南矢野日字鶴目東	—
(株)アズマエクスプレス	福島市上野寺字北ノ内	—
福島個人タクシー事業協同組合	福島市吉倉字吉田	—
(有)丸和保原タクシー	伊達市保原町字	—
(有)梁川タクシー	伊達市梁川町幸町	—
(有)ふくしま中央交通	伊達市野崎	—
(有)月館観光	伊達市月館町布川字西原	—
伊具タクシー(有)	角田市角田字町	7
(有)草間タクシー	角田市角田字町	10
柴田稲荷タクシー(有)	柴田町西船迫	12
新盛堂タクシー(有)	柴田町船岡中央	9
(有)山正タクシー	丸森町大内字町	5
資料：一般社団法人福島県タクシー協会及び一般社団法人宮城県タクシー協会の HP		
※福島県側の車両数は非公開		

表 タクシー事業者一覧

【資料 22】

福島交通	福島～仙台
	福島～いわき
	福島～会津若松
	福島・郡山～新宿
	福島・郡山～京都・大阪
東北アクセス	福島・南相馬線

表 主な高速バス

【資料 23】

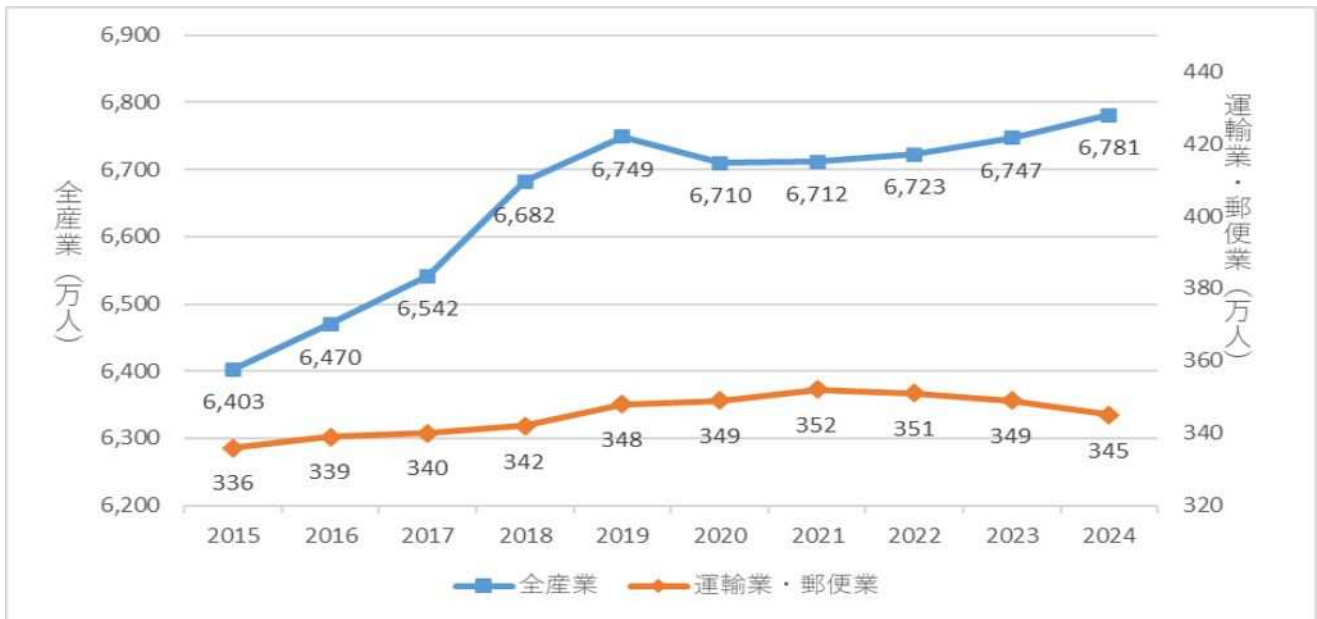


図 全産業と交通事業の就業者数の推移（資料：総務省 労働力調査）



図 全職業と自動車運転従事者の有効求人倍率の推移（資料：厚生労働省 職業安定業務統計）

【資料 24】

駅 名	距離 (km)	停車本数		所要時間 (分)	列車交換 可能駅
		槻木方面	福島方面		
福島駅	—	27	—	—	
卸町駅	5.6	27	27	7	
福島学院前駅	0.9	27	27	2	
瀬上駅	1	27	27	2	○
向瀬上駅	1.1	27	27	2	
高子駅	1.5	27	27	2	○
上保原駅	1.4	27	27	2	
保原駅	1.3	27	27	2	○
大泉駅	1.1	27	27	2	
二井田駅	1.5	27	27	2	○
新田駅	1.6	27	27	2	
梁川駅	1.3	27	27	2	○
やながわ希望の森公園前駅	1.7	25	24	3	
富野駅	2.1	17	24	3	○
兜駅	3.1	17	17	4	
あぶくま駅	4.2	17	17	4	
丸森駅	8.1	21	17	7	○
北丸森駅	1.7	21	21	3	
南角田駅	2.4	21	21	3	
角田駅	1.7	21	21	3	○
横倉駅	1.9	21	21	3	
岡駅	2.5	21	21	3	
東船岡駅	3.6	21	21	4	○
槻木駅	3.6	—	21	4	

表 阿武隈急行線の駅間所要時分

【資料 25】

駅名	駅前 広場	駐車場		駐輪場		公衆トイレ		待合室		ホーム上屋		券売機
		有無	台数	有無	台数	水洗	その他	駅舎内	ホーム	全部	一部	台数
福島駅	自		駅東西に 有料駐車場有		駅東西に 無料駐輪場有	社		社			社	2
卸町駅	自	自	5	自	100	社		社			社	
学院前駅	自			自	68						社	
瀬上駅	自	自	7	自	30						社	
向瀬上駅	自	自	4	自	20				社			
高子駅	自	自	8	自	37	自					社	
上保原駅	自	自	12	自	64	自			社		社	
保原駅	自	自	65	自	175	自		自		社		2
大泉駅	自	自	84	自	40	自					社	
二井田駅	自	自	9	自	30	自					社	
新田駅	自	自	40	自	45		自				社	
梁川駅	自	自	120	自	150	自		自		社		2
公園前駅	自	自	13	自	100	自		自			社	
富野駅	自	自	14	自	16		自				社	
兜駅				自	4						社	
あぶくま駅	自	自	18			自		自			社	
丸森駅	自	自	111	自	144	自		社		社		2
北丸森駅	自	自	28	自	14	自					社	
南角田駅	自	自	31	自	28		自				社	
角田駅	自	自	232	自	260	自		自		社		2
横倉駅	自	自	22	自	33		自				社	
岡駅	自	自	24	自	10	自			社			
東船岡駅	自	自	10	自	60		自		社		社	
槻木駅	自		駅東西に 有料駐車場有		駅東西に 有料駐輪場有	JR共同使用					社	

※駐輪場の台数については、自転車1台あたりの寸法を横幅600mmとして算出。

※(自)自治体保有、(社)会社保有

表 各駅の設備一覧

【資料 26】



図 年間輸送人員の推移

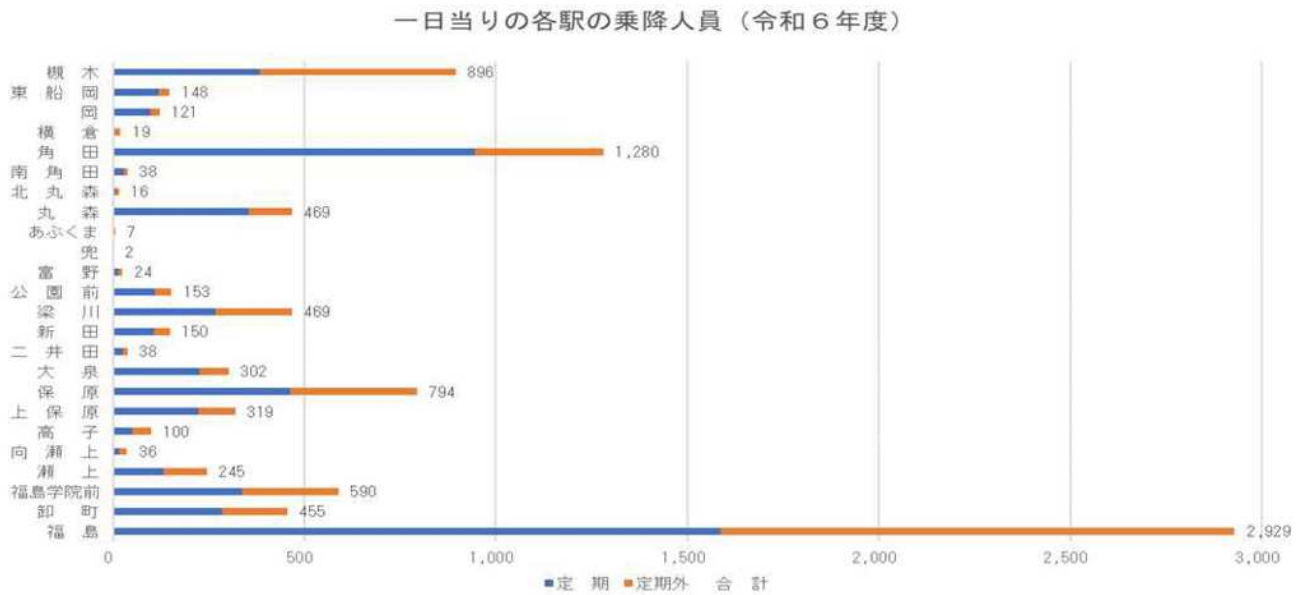


図 一日あたりの各駅の乗降人員（令和6年度）

【資料 27】



図 鉄道事業営業損益の推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
鉄道事業営業収益	679,594	588,971	404,252	431,024	352,923	505,627	523,796
旅客運輸収入	656,767	570,790	385,431	411,029	333,429	484,947	500,376
旅客雑入	22,827	18,181	18,821	19,995	19,494	20,680	23,420
鉄道事業営業費	772,346	751,496	927,036	1,055,342	950,187	1,017,854	1,387,048
運送費	611,460	600,721	756,198	883,879	766,102	838,868	1,212,439
一般管理費	79,091	69,423	81,785	84,413	98,873	99,590	96,541
諸税	39,242	38,028	43,811	43,216	42,856	43,860	47,413
減価償却費	42,553	43,324	45,242	43,834	42,356	35,536	30,655
営業損益	-92,752	-162,525	-522,784	-624,318	-597,264	-512,227	-863,252

表 鉄道事業営業損益の推移

【資料 28】

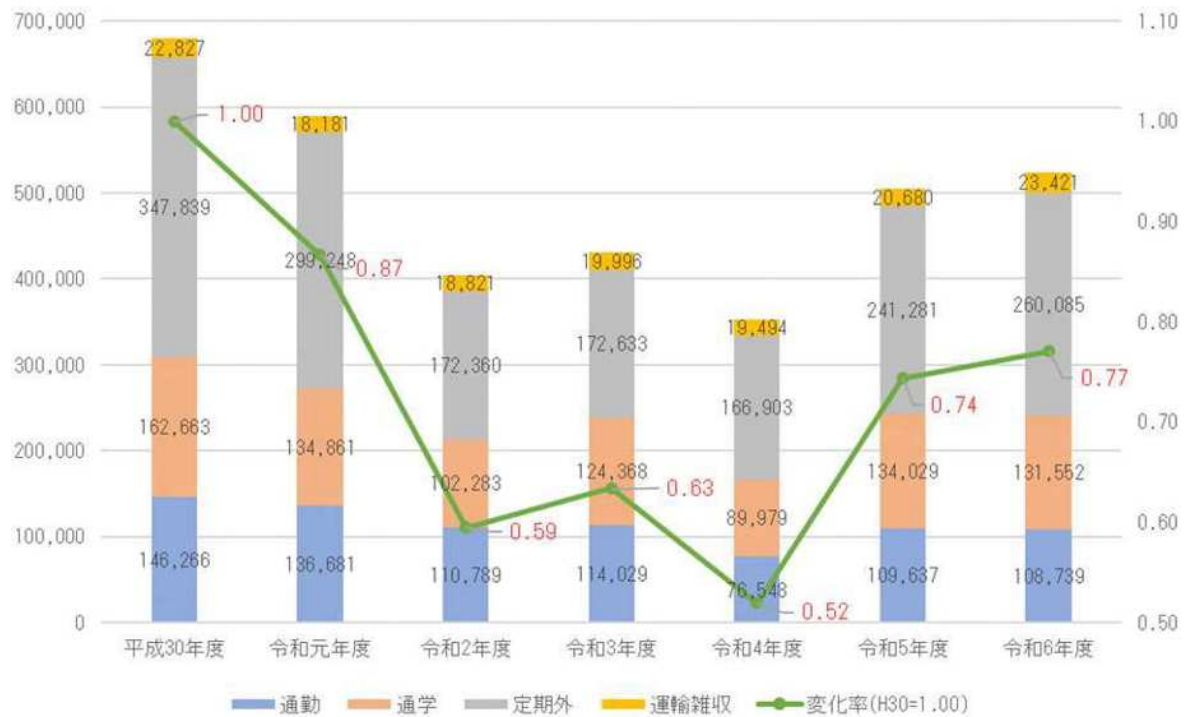
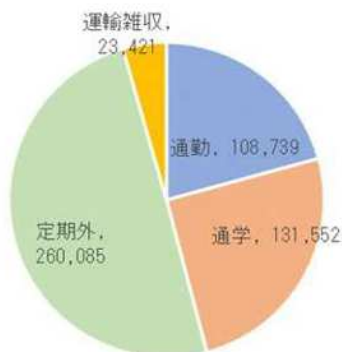
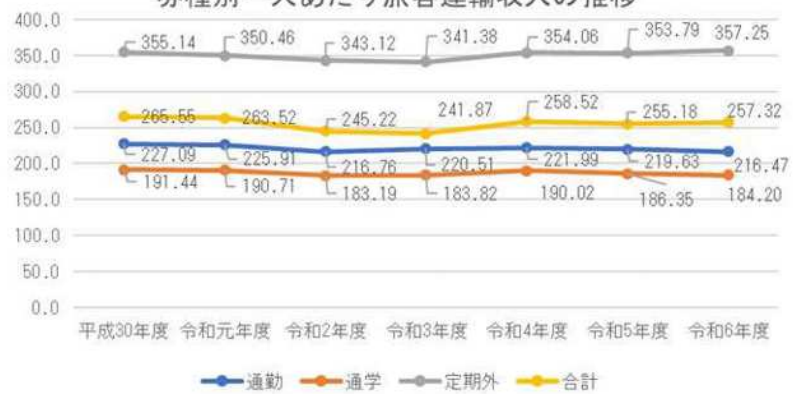


図 鉄道事業営業収益の推移

令和6年度の鉄道事業営業収益



券種別一人あたり旅客運輸収入の推移



【資料 29】

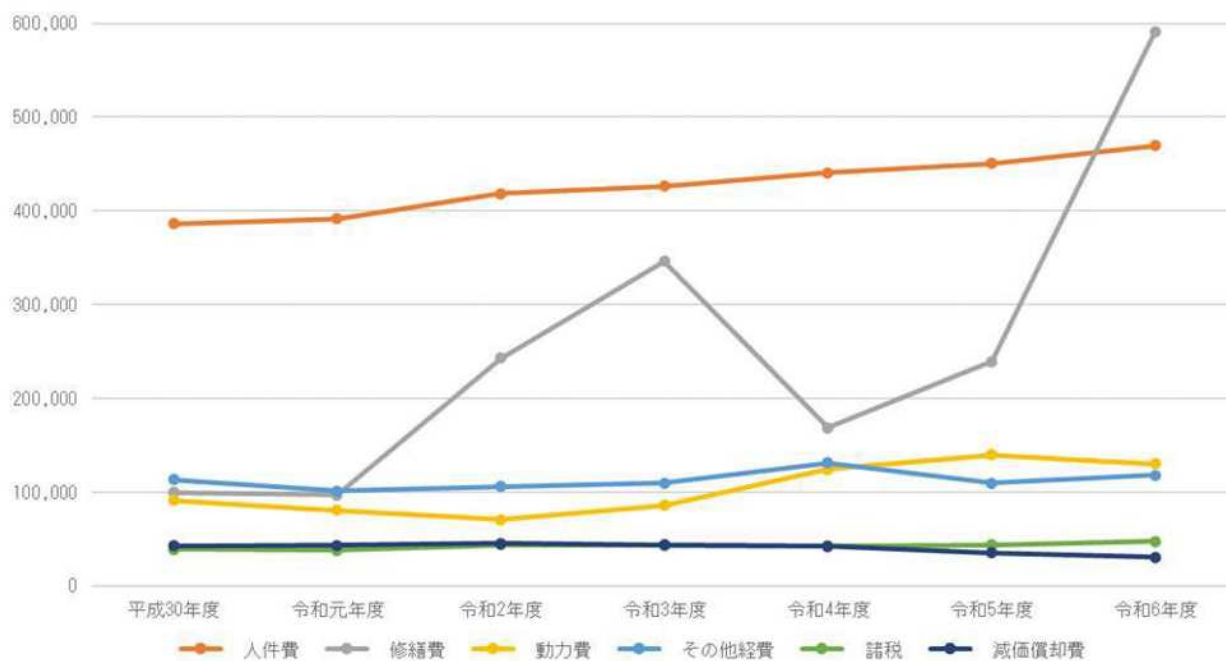
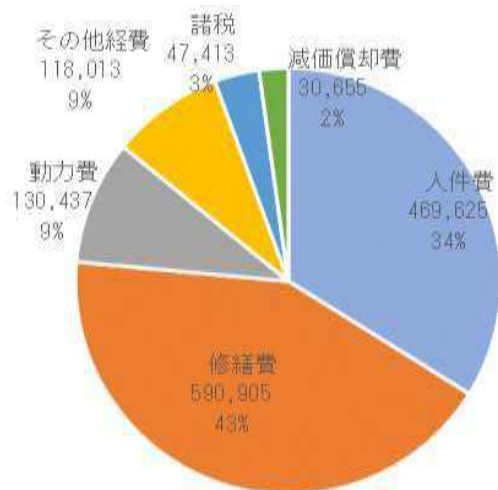


図 鉄道事業営業費の推移

令和6年度の鉄道事業営業費



【資料 30】

自治体	事業名	事業概要
福島県	阿武隈急行緊急保全整備事業費補助金	阿武隈急行(株)が実施する鉄道の安全性の向上・維持運営のために整備しなければならない緊急保全整備事業及び施設設備等整備事業に対し、宮城県及び沿線自治体と協調して補助する。
	阿武隈急行運行継続支援事業補助金	極めて厳しい経営状況にある阿武隈急行(株)に対して、経常損失相当額を宮城県及び沿線市町と協調して支援することにより、福島県と宮城県を結ぶ重要な路線である阿武隈急行線の運行継続を図り、県民の移動手段を確保する。
福島市	阿武隈急行緊急保全整備事業費等補助金	阿武隈急行(株)が実施する鉄道の安全性の向上・維持運営のために整備しなければならない緊急保全整備事業及び施設設備等整備事業に対し、沿線自治体と協調して補助する。
	阿武隈急行運行継続支援事業補助金	厳しい経営状況にある阿武隈急行に対し、経常損失相当額を沿線自治体と協調して支援することにより、阿武隈急行線の運行継続を図り、市民の移動手段を確保している。
伊達市	阿武隈急行緊急保全整備事業費等補助事業	阿武隈急行(株)が実施する鉄道の安全性の向上・維持運営のために整備しなければならない緊急保全整備事業及び施設設備等整備事業に対し、沿線自治体と協調して補助する。
	阿武隈急行運行継続支援事業補助金	厳しい経営状況にある阿武隈急行に対し、経常損失相当額を沿線自治体と協調して支援することにより、阿武隈急行線の運行継続を図り、市民の移動手段を確保している。
	伊達市高校生等通学費補助金	伊達市に居住し、高等学校等にバス及び鉄道を利用して通学する生徒の保護者に対し、定期乗車券購入費用の一部を補助する。 補助金の額は、購入した定期券の通用期間が1月のものにあたっては15,000円、3月のものにあたっては43,000円、6月のものにあたっては82,000円を超えた額とする。

自治体	事業名	事業概要
宮城県	阿武隈急行緊急保全整備事業費補助金	阿武隈急行(株)が実施する鉄道の安全性の向上・維持運営のために整備しなければならない緊急保全整備事業及び施設設備等整備事業に対し、福島県及び沿線自治体と協調して補助する。
	阿武隈急行運行継続支援事業補助金	極めて厳しい経営状況にある阿武隈急行(株)に対して、経常損失相当額を宮城県及び沿線市町と協調して支援することにより、福島県と宮城県を結ぶ重要な路線である阿武隈急行線の運行継続を図り、県民の移動手段を確保する。
	阿武隈急行利用促進支援事業	宮城側3市町が実施する運賃助成事業、通勤定期助成事業、利用促進事業に対し、補助。
角田市	阿武隈急行緊急保全整備事業費補助金	阿武隈急行(株)が実施する鉄道の安全性の向上・維持運営のために整備しなければならない緊急保全整備事業及び施設設備等整備事業に対し、沿線自治体と協調して補助する。
	阿武隈急行線運行継続支援事業補助金	度重なる自然災害、新型コロナウイルス感染症の長期化、施設の老朽化に伴う改修費用等の増大や沿線自治体の人口減少による運賃収入の減少により著しく経営が悪化している阿武隈急行(株)に対し、宮城・福島両県及び沿線自治体と協調して補助する。
	阿武隈急行線利用促進通学定期券購入費補助金	新型コロナウイルス感染症の影響で、著しく減少した阿武隈急行線利用客の回復と学生の保護者の経済的支援を図るため、阿武隈急行線を利用して通学する市民の通学定期券購入費を2分の1(10円未満の端数切捨て)補助する。
	運賃助成事業	下記の要件を満たした方について、阿武隈急行線が半額または無料で乗車できる。 (1)角田市にお住まいの方または角田市内の企業、学校に通勤・通学されている方 ※ただし、毎日通勤・通学での利用をしている場合は対象外となる。 (2)阿武隈急行線の宮城県内の駅(槻木・東船岡・岡・横倉・角田・南角田・北丸森・丸森・あぶくま)のいずれかから乗車または降車すること。
	ポイント引き換え事業	通常切符・阿武隈急行(株)が発行する企画切符を購入し、角田駅で乗車または降車する方には利用するごとに1ポイントを交付し、20ポイント取得した方には年度末に抽選を行い、特典を提供。
柴田町	阿武隈急行緊急保全整備事業費補助金	阿武隈急行(株)が実施する鉄道の安全性の向上・維持運営のために整備しなければならない緊急保全整備事業及び施設設備等整備事業に対し、沿線自治体と協調して補助する。
	運賃助成事業	下記の要件を満たした方について、阿武隈急行(槻木～福島間)が半額または無料で乗車できる。 ・柴田町にお住まいの方 ・柴田町内の企業にお勤めの方または柴田町内の学校に在学している方 ・阿武隈急行の宮城県内の駅から乗車または降車すること。
	阿武隈急行線運行継続支援事業補助金	阿武隈急行(株)の事業継続を支援し、阿武隈急行線の維持を図るため、鉄道事業の損益収支計算上生じた経営損益に相当する額の一部を沿線自治体と協調して補助する。
丸森町	阿武隈急行緊急保全整備事業費補助金	阿武隈急行(株)が実施する鉄道の安全性の向上・維持運営のために整備しなければならない緊急保全整備事業及び施設設備等整備事業に対し、沿線自治体と協調して補助する。
	阿武隈急行線運行継続支援事業補助金	阿武隈急行(株)の事業継続を図り、阿武隈急行線の維持発展を図るため、会社が経営する鉄道事業の損益収支計算上生じた経常損失に相当する額を沿線自治体と協調して補助する。
	通学定期券助成事業	阿武隈急行線の利用促進と学生の保護者の経済的支援を図るため、阿武隈急行線を利用して通学する町民の通学定期券購入費を補助。
	観光客への「お買物券」進呈事業	阿武隈急行線を利用して、町に訪れたお客様へのおもてなしとして、町内有料観光施設「齋理屋敷」又は「阿武隈ライン舟下り」をご利用された方を対象に町内限定お買物券 500円相当を進呈。
	運賃助成事業	丸森町にお住まいの方または丸森町内の企業、学校に通勤・通学されている方で、阿武隈急行線を2人以上でご利用する場合は半額で、また学校行事等でご利用する場合は無料で乗車できる。
	ポイントカード事業	通常切符を購入し丸森駅で乗降した場合に1ポイント付与。10ポイントで「あぶくま商品券(500円分)」と交換できる特典

【資料 31】

切符名	発売期間	使用期間	設定区間	価格	内容
櫻めぐり切符	4 月～5 月 上旬	券面指定の 1 日 に限り有効	全線乗り降り 自由	大人 1,000 円 小児 500 円	あぶ急沿線のお花見スポットめぐり にぴったりのお得な切符
あぶ急トクだね きっぷ	毎月 9 のつく 日	発売日当日限り 有効	全線乗り降り 自由	大人 900 円 小児 450 円	900 円で全線が 1 日乗り放題のお得な 切符
「阿武急の日」 フリー乗車券	毎月第 1 日 曜日、元旦、 鉄道の日(10 月 14 日) 年 14 回販売	発売日当日限り 有効	全線乗り降り 自由	大人 600 円 小児 300 円	600 円で全線一日乗り放題のお得な切 符
飯坂温泉日帰り きっぷ	通年	券面指定の 1 日 に限り有効	阿武隈急行線 及び福島交通 飯坂線フリー 区間	大人 1,500 円 小児 750 円	阿武隈急行線・福島交通飯坂線フリー 乗車券＋飯坂温泉入浴券がセットに なったお得な切符
中高生なつ割ワ ンコインきっぷ	夏休み期間	発行日のみ有効	全線乗り降り 自由	500 円	中学生及び高校生本人のみ購入可
中高生ふゆ割ワ ンコインきっぷ	冬休み期間				
シニア割ワンコ インきっぷ	概ね 1 月から 3 月	発行日のみ有効	全線乗り降り 自由	500 円	「65 歳以上の方」本人のみ購入可
GO!かくだ切符	通年	発売日当日限り 有効	やながわ希望 の森公園前駅 ～角田駅間	590 円	「希望」と「合格」をかけた特別切符
コロプラ乗り放 題切符	通年	券面指定の 1 日 に限り有効	全線乗り降り 自由	大人 2,000 円 小児 900 円	阿武隈急行全線 1 日乗り放題。大人の みコロカ付属での発売
運転免許返納割	通年	券面表示の一日 限り有効	阿武隈急行線 内	乗車区間普通 片道・往復運 賃の 30%割引	

【資料 32】

阿武隈急行線沿線住民及び利用者向けアンケート調査

1 調査目的

極めて厳しい経営環境にある阿武隈急行の経営改善策を着実に実施しつつ、更なるサービス向上を図るため、沿線住民及び利用者を対象にアンケート調査を実施するもの。

2 調査対象

阿武隈急行線沿線住民及び利用者

3 調査手法

Web サイト上に回答フォームを開設し、アンケート回答を募った。

4 受付期間

2025年9月19日（金）～2025年10月16日（木）

5 回答状況

回答数：867件

※回答取りまとめ結果は次ページ以降に掲載

阿武隈急行線沿線地域アンケート 調査項目及び回答取りまとめ

阿武隈急行沿線地域アンケート

阿武隈急行線は、沿線地域の人口減少や車社会進展に加え、新型コロナウイルス感染症の流行、度重なる自然災害、施設の老朽化による修繕費の増大等の要因により、極めて厳しい経営環境にあります。

こうしたなか、抜本的な経営改善を図るため、令和5年3月に、有識者や沿線自治体、鉄道事業者等による「阿武隈急行線在り方検討会」を設置し検討を進め、令和7年3月に「阿武隈急行線在り方検討会 提言」として、経営改善策を取りまとめました。

今後、提言に基づく経営改善策を着実に実施しつつ、更なるサービス向上を図るため、沿線地域に居住される皆様および、沿線地域に通勤・通学される皆様を対象にアンケート調査を実施しますので御協力をお願いいたします。

令和7年9月
阿武隈急行線沿線地域公共交通協議会
(事務局：宮城県地域交通政策課、福島県生活交通課)

[Google にログイン](#)すると作業内容を保存できます。[詳細](#)

質問1 普段の外出頻度と利用交通手段についてお聞きます。

質問1-a 普段の外出頻度について、それぞれの目的で最も近い選択肢を1つ選んでください

	ほぼ毎日	週5日程度	週2～4日程度	週1日程度	月2～3日程度	月1日程度	年に数日程度	年に1日以下	この目的では外出し
通勤	136 15.7%	255 29.4%	43 5.0%	28 3.2%	5 0.6%	3 0.3%	10 1.2%	7 0.8%	380 43.8%
通学	115 13.3%	78 9.0%	16 1.8%	36 4.2%	2 0.2%	2 0.2%	3 0.3%	5 0.6%	610 70.4%
業務・出張	17 2.0%	15 1.7%	21 2.4%	63 7.3%	41 4.8%	47 5.4%	151 17.4%	47 5.4%	465 53.6%
買物	63 7.3%	30 3.5%	231 26.6%	194 22.4%	80 9.2%	43 4.9%	62 7.2%	22 2.5%	142 16.4%
通院	4 0.5%	1 0.1%	16 1.8%	61 7.0%	73 8.4%	147 17.0%	158 18.2%	44 5.1%	363 41.9%
観光	5 0.6%	2 0.2%	19 2.2%	78 9.0%	89 10.3%	118 13.6%	265 30.5%	64 7.4%	227 26.2%
その他	24 2.8%	12 1.4%	43 5.0%	94 10.8%	40 4.6%	46 5.3%	94 10.8%	42 4.9%	472 54.4%

※下段は回答割合

質問1-b 普段の外出に利用する移動手段についてお聞きします。それぞれの目的で最も多く利用する手段を**1つ**選んでください。 *

※ デマンド交通は、利用者の予約に応じた経路や時間で運行する公共交通です。阿武隈急行沿線では、伊達市の「のってみっカー」や「まちなかタクシー」、角田市の「ラビットくん」などが挙げられます。

	阿武隈急行線	鉄道 (阿武隈急行線以外)	路線バス	送迎バス (スクールバス、医療機関等のバス)	デマンド交通 (乗合タクシー)	タクシー	自動車 (自分で運転)	自動車 (自分が運転以外)	原付・バイク	自転車	徒歩	この目的ではない
通勤	80 9.2%	61 7.0%	13 1.5%	9 1.0%	0 0.0%	1 0.1%	355 41.0%	12 1.4%	2 0.2%	33 3.8%	30 3.5%	271 31.3%
通学	148 17.1%	25 2.9%	14 1.6%	13 1.5%	1 0.1%	1 0.1%	44 5.1%	20 2.3%	4 0.5%	27 3.1%	17 1.9%	553 63.8%
業務・出張	100 11.5%	105 12.1%	15 1.7%	6 0.7%	1 0.1%	1 0.1%	203 23.4%	35 4.0%	3 0.4%	6 0.7%	3 0.4%	389 44.9%
買物	82 9.5%	41 4.7%	19 2.2%	7 0.8%	0 0.0%	1 0.1%	475 54.8%	101 11.6%	4 0.5%	46 5.3%	29 3.3%	62 7.2%
通院	46 5.3%	31 3.6%	20 2.3%	7 0.8%	3 0.4%	1 0.1%	439 50.6%	77 8.8%	3 0.4%	25 2.9%	25 2.9%	190 21.9%
観光	108 12.5%	139 16.0%	13 1.5%	5 0.6%	1 0.1%	3 0.3%	331 38.2%	129 14.9%	3 0.3%	7 0.8%	4 0.5%	124 14.3%
その他	93 10.7%	42 4.8%	15 1.7%	5 0.6%	1 0.1%	1 0.1%	247 28.5%	37 4.3%	4 0.5%	21 2.4%	25 2.9%	376 43.4%

※下段は回答割合

質問2 ご自身の通勤・通学についてお聞きします。

質問2-1 通勤・通学の状況について、ご自身の状況に近いものを**1つ**選んでください。 *

※ 通勤と通学をどちらも行っている場合は、頻度が多い方でお答えください。

☐ 通勤している	516 (59.5%)
☐ 通学している	212 (24.5%)
☐ 通勤・通学していない	139 (16.0%)

質問2 ご自身の通勤・通学についてお聞きします。

質問2-2-a 通勤先の郵便番号がお分かりであれば、記入してください。

※ 郵便番号は半角数字で入力し、ハイフン (-) は省略してください。（例：971-0001→9710001）

回答を入力

福島市	136	34.0%
伊達市	51	12.8%
丸森町	61	15.2%
角田市	73	18.2%
柴田町	11	2.8%
仙台市	18	4.5%
その他	50	12.5%

質問2-2-b 通勤先に駐車場はありますか。ご自身の状況に最も近い選択肢を1つ選んでください。 *

☐ 無料で使用できる駐車場がある。	354 (68.7%)
☐ 自身で費用を負担して駐車場を確保している。	38 (7.4%)
☐ 普段は自家用車で通勤していない。	120 (23.3%)
☐ その他:	3 (0.6%)

※通学している場合のみ任意回答

質問2 ご自身の通勤・通学についてお聞きします。

質問2-3 差し支えがなければ、通学先の学校名を記入してください。

回答を入力

福島商業高校	30
福島高校	23
橘高校	7
福島東高校	4
福島工業高校	3
福島東稜高校	3
福島成蹊高校	3
福島西高校	2
伊達高校	1
福島県立医大	25
福島大学	7
伊具高校	24
角田高校	13
仙台高等専門学校	3
東北学院大学	3
仙台大学	1
その他	31

質問3 阿武隈急行線のご利用状況についてお聞きます。

質問3-1 阿武隈急行線の利用状況について、ご自身の状況に最も近い選択肢を **1つ** 選んでください。 *

☐ 利用している	448 (51.7%)
☐ 過去に利用したことがある	368 (42.4%)
☐ 過去も含めて利用したことがない	51 (5.9%)

質問3-2-a お住まいの最寄り駅（普段利用されている駅）を教えてください。 *

回答を入力

福島	28	6.3%
卸町	18	4.0%
福島学院前	23	5.1%
瀬上	22	4.9%
向瀬上	7	1.6%
高子	8	1.8%
上保原	27	6.0%
保原	65	14.5%
大泉	11	2.5%
二井田	2	0.4%
新田	11	2.5%
梁川	26	5.8%
公園前	4	0.9%
富野	2	0.4%
兜	0	0.0%
あぶくま	1	0.2%
丸森	59	13.2%
北丸森	3	0.7%
南角田	2	0.4%
角田	73	16.3%
横倉	2	0.4%
岡	6	1.4%
東船岡	3	0.7%
槻木	10	2.2%
その他(他路線)	35	7.8%

質問3-2-b お住まいの最寄り駅（質問3-2-aでお答えの駅）まで利用する交通手段について、あてはまるものをすべて選んでください。 *

☐ 路線バス	27
☐ デマンド交通（乗合タクシー）	2
☐ タクシー	12
☐ 自動車（自分で運転）	132
☐ 自動車（自分以外が運転）	118
☐ 原付・バイク	7
☐ 自転車	122
☐ 徒歩のみ	231

☐ その他: _____ **※複数回答可**

質問3-2-c お住まいの最寄り駅（質問3-2-aでお答えの駅）までの所要時間はどのくらいですか *

☐ 10分未満	279 (62.3%)
☐ 10分以上20分未満	133 (29.7%)
☐ 20分以上30分未満	27 (6.0%)
☐ 30分以上	9 (2.0%)

質問3-3 普段利用する**目的地側の駅**（お住まいの最寄り駅から利用した際に降りる駅）を教えてください。 *

※ 阿武隈急行線から他の鉄道に乗り継いで利用される際は、乗り継いだ後の駅名をお答えください。

回答を入力

福島	197	44.0%
卸町	32	7.1%
福島学院前	5	1.1%
瀬上	0	0.0%
向瀬上	0	0.0%
高子	0	0.0%
上保原	1	0.2%
保原	4	0.9%
大泉	3	0.7%
二井田	0	0.0%
新田	0	0.0%
梁川	4	0.9%
公園前	0	0.0%
富野	0	0.0%
兜	0	0.0%
あぶくま	0	0.0%
丸森	11	2.5%
北丸森	0	0.0%
南角田	0	0.0%
角田	21	4.7%
横倉	0	0.0%
岡	0	0.0%
東船岡	1	0.2%
槻木	28	6.3%
仙台	114	25.4%
その他	27	6.0%

質問3-4 阿武隈急行線があることは、居住地を選択するうえで影響しましたか。ご自身の考えに最も近い選択肢を1つ選んでください。 *

☐ 大きく影響した	130 (29.0%)
☐ 少し影響した	85 (19.0%)
☐ あまり影響しない	103 (23.0%)
☐ まったく影響しない	130 (29.0%)

質問3-4-a 阿武隈急行線があることが居住地の選択に影響したとお答えになった理由を教えてください。 *

回答を入力

- ・居住地の選択に影響した理由については、合計213件の回答があり、家族の通学や自身の通勤の都合と、移動手段の選択肢が増えて便利であることがともに86件、実家や親族の居住地が沿線にあるためが16件であった。
- ・特に、通学の都合では、子どもの将来的な進学先の選択肢を増やすために沿線に居住地を選択した趣旨の回答が複数あった。
- ・また、移動手段の選択肢としては、福島と仙台の両方への移動手段として想定している趣旨の回答も複数あった。

質問3-5 阿武隈急行線を利用できない場合の代替手段について、ご自身が利用可能なものをすべて選んでください。 *

☐ 代替手段はない	47
☐ 他の鉄道（JR東北本線など）	125
☐ 路線バス	164
☐ 送迎バス（スクールバス、医療機関等のバス）	2
☐ デマンド交通（乗り合いタクシー）	0
☐ タクシー	61
☐ 自動車（自分で運転）	229
☐ 自動車（自分以外で運転）	191
☐ 原付・バイク	10
☐ 自転車	77
☐ 徒歩	64
☐ その他	7

※複数回答可

質問3-6 阿武隈急行線をご利用の際、片道のみ利用すること（※）はありますか。ご自身の状況に最も近い選択肢を **1つ** 選んでください。 *

※ 行きは家族などの出勤の自動車に同乗し、帰りのみ阿武隈急行線を利用するなどのケースを指します。

☐ 阿武隈急行線を片道のみで利用することが多い。	25 (5.6%)
☐ 阿武隈急行線を片道のみで利用することが時々ある。	99 (22.1%)
☐ 阿武隈急行線を片道のみ利用することは滅多にない。	160 (35.7%)
☐ 阿武隈急行線を片道のみ利用することはない。	164 (36.6%)

質問3-7-a 阿武隈急行線を片道のみ乗車したのは、利用した日のなかで、どの程度を占めますか。ご自身の状況に最も近い選択肢を **1つ** 選んでください。 *

☐ 利用した日のほぼすべて	15 (5.3%)
☐ 利用した日の9割程度	7 (2.5%)
☐ 利用した日の7～8割程度	14 (4.9%)
☐ 利用した日の半分程度	23 (8.1%)
☐ 利用した日の2～3割程度	35 (12.3%)
☐ 利用した日の1割程度	47 (16.5%)
☐ 利用した日のうちごくわずか	143 (50.4%)

質問3-7-b 阿武隈急行線を片道のみ乗車するのは、行きと帰りのどちらが多いですか。ご自身の状況に最も近い選択肢を **1つ** 選んでください。 *

☐ 行きの方が多い	143 (50.3%)
☐ 行きと帰りは同じくらい	53 (18.7%)
☐ 帰りの方が多い	88 (31.0%)

質問3-7-c 阿武隈急行線を片道のみで利用することがある理由を教えてください。

回答を入力

- ・ 片道利用の理由については、合計237件の回答が寄せられ、家族等の送迎との併用が103件、他路線やバスとの併用が26件、飲酒する際に使用が24件であった。
- ・ その他、残業等の際に終電の時間が早いため、仕方なく帰りが別の交通手段となる趣旨の回答が25件あった。

※過去に利用していた場合のみ回答

質問3-8-a 阿武隈急行線は、いつごろまで利用していましたか。ご自身の状況に最も近い選択肢を1つ選んでください。 *

☒ 2025年も利用したが、現在は利用していない	124 (33.7%)
☐ 2024年ころまで利用していた	44 (12.0%)
☐ 2023年ころまで利用していた	13 (3.5%)
☐ 2022年ころまで利用していた	5 (1.4%)
☐ 2021年ころまで利用していた	6 (1.6%)
☐ 2020年ころまで利用していた	7 (1.9%)
☐ 2019年ころまで利用していた	9 (2.4%)
☐ 2018年以前は利用したが、現在は利用していない	92 (25.0%)
☐ 覚えていない	68 (18.5%)

質問3-8-b 阿武隈急行線を利用しなくなった理由について、ご自身の考えに近い選択肢をすべて選んでください。 *

☒ 運行本数・ダイヤが合わない	132
☐ 運行速度が遅い（所要時間が長い）	24
☐ 運賃が高い	93
☐ 車内が混雑する	0
☐ キャッシュレスシステムが導入されていない	67
☐ 駅員や乗務員の接客に不満がある	10
☐ 駅付近の駐車場が不足している	21
☐ 駅付近の駐輪場が不足している	3
☐ 駅や車両がバリアフリーになっていない	5
☐ 人事異動や転勤があった	35
☐ 卒業や転職をした	50
☐ 運転免許（自動車、バイク）を取得した	79
☐ 地震や台風による運休が続いた	8

☐ その他:

※複数回答可

質問4 阿武隈急行線は、2019年10月から2022年3月まで台風や地震による運休が発生しました。このことに関してお聞きます。

質問4-1 阿武隈急行線は、2019年10月の東日本台風（台風19号）や、福島県沖地震（2021年2月13日、22年3月17日）により運休しました。これらの発生当時、阿武隈急行線をご利用になっていましたか。ご自身の状況に最も近い選択肢を**1つ**選んでください。

※ 各時点で阿武隈急行線の利用頻度が異なる方は「高い方の」頻度でお答えください。

☐ ほぼ毎日利用していた	20 (3.1%)
☐ 週5日程度利用していた	28 (4.3%)
☐ 週2～4日程度利用していた	18 (2.8%)
☐ 週1日程度利用していた	12 (1.8%)
☐ 月2～3日程度利用していた	22 (3.4%)
☐ 月1日程度利用していた	28 (4.3%)
☐ 年に数日程度利用していた	87 (13.3%)
☐ 年に1日以下の利用であった	45 (6.9%)
☐ 利用していなかった	392 (60.1%)

質問4-2 阿武隈急行線が運休したため、ご自身が影響を受けた災害をすべて選んでください。 *

☐ 2019年10月の東日本台風の被害による運休（2019年10月12日～2020年10月31日まで順次運転再開）の際に影響があった。	53
☐ 2021年2月13日に発生した福島県沖地震による運休（2021年2月14日全線運休）の際に影響があった。	16
☐ 2022年3月17日に発生した福島県沖地震による運休（2022年3月17日～6月27日まで順次運転再開）の際に影響があった	54

※複数回答可

質問4-3 阿武隈急行線の運休中は、どの交通手段を利用しましたか。外出状況の変化も含めて、ご自身の状況にあてはまる選択肢をすべて選んでください。 *

☐ 代行バス	66
☐ 他の鉄道（JR東北本線など）	51
☐ 路線バス（代行バスを除く）	49
☐ 送迎バス（スクールバス、医療機関等のバス）	2
☐ デマンド交通（乗合タクシー）	0
☐ タクシー	5
☐ 自動車（自分で運転）	91
☐ 自動車（自分以外が運転）	71
☐ 原付・バイク	1
☐ 自転車	18
☐ 徒歩	9
☐ 出かける頻度を減らした	26
☐ 阿武隈急行線の運休に影響を受けない場所に目的地を変えた	12
☐ その他: _____	※複数回答可

質問4-4 運転再開後、阿武隈急行線を再び利用するようになりましたか。ご自身の状況に最も近い選択肢を1つ選んでください。 *

☐ 阿武隈急行線を再び利用するようになり、利用頻度は運休前から増加した。	28 (13.0%)
☐ 阿武隈急行線を再び利用するようになり、利用頻度も運休前と同等である。	137 (63.7%)
☐ 阿武隈急行線を再び利用するようになったが、運休前より利用頻度は減った	34 (15.8%)
☐ 阿武隈急行線を利用しなくなった	15 (7.0%)
☐ その他: _____	1 (0.5%)

質問4-4-a 運転再開後、阿武隈急行線の利用をやめた、もしくは利用を減らした理由を教えてください。 *

- 回答を入力
- ・ 運転再開後に利用をやめたまたは減らした理由は、合計50件の回答があり、主な内容としては、自動車利用に変更が12件、減便によりダイヤが合わなくなったが8件、引っ越しや転職等の環境変化が7件、運賃が高いが4件であった。

11

質問5 阿武隈急行線のサービスについてお聞きします。

質問5-1 阿武隈急行線のサービスについて5段階で評価するとどのくらいの満足^{*}度ですか。ご自身の考えに最も近い選択肢を**1つ**選んでください。

	5. 満足	4. どちらかという満足	3. 普通	2. どちらかという不満	1. 不満	?. 分からない
運行本数・運行ダイヤ	57 6.6%	109 12.6%	244 28.1%	246 28.4%	141 16.2%	70 8.1%
所要時間	164 18.9%	120 13.8%	379 43.7%	86 9.9%	50 5.8%	68 7.9%
運賃	58 6.7%	63 7.3%	269 31.0%	273 31.5%	142 16.4%	62 7.1%
始発・終電の時間	107 12.3%	112 12.9%	349 40.3%	132 15.2%	69 8.0%	98 11.3%
車両の混み具合	200 23.1%	163 18.8%	368 42.4%	38 4.4%	18 2.1%	80 9.2%
乗り心地、車両設備	224 25.8%	196 22.6%	338 39.0%	25 2.9%	19 2.2%	65 7.5%
駅待合設備	101 11.6%	128 14.8%	345 39.8%	158 18.2%	66 7.6%	69 8.0%
他鉄道との乗り継ぎ	83 9.6%	105 12.1%	340 39.2%	163 18.8%	79 9.1%	97 11.2%
バスとの乗り継ぎ	61 7.0%	56 6.5%	326 37.6%	104 12.0%	49 5.6%	271 31.3%
キャッシュレスシステムの導入	102 11.8%	75 8.7%	205 23.6%	173 19.9%	175 20.2%	137 15.8%
定時性	188 21.7%	121 14.0%	360 41.5%	42 4.8%	32 3.7%	124 14.3%
駅員や乗務員の接客	210 24.2%	169 19.5%	340 39.2%	35 4.0%	31 3.6%	82 9.5%
駅付近の駐車場	191 22.0%	167 19.3%	288 33.2%	70 8.1%	37 4.3%	114 13.1%
駅付近の駐輪場	175 20.2%	151 17.4%	321 37.0%	40 4.6%	28 3.3%	152 17.5%



	5. 満足	4. どちらかという満足	3. 普通	2. どちらかという不満	1. 不満	?. 分からない
駅の段差や階段	127 14.6%	97 11.2%	414 47.8%	95 11.0%	49 5.6%	85 9.8%
ホームと車両の段差	164 18.9%	106 12.2%	452 52.1%	36 4.2%	24 2.8%	85 9.8%
ホームの広さ	146 16.8%	117 13.5%	453 52.3%	49 5.7%	22 2.5%	80 9.2%
運行情報案内	116 13.4%	99 11.4%	406 46.8%	113 13.0%	51 5.9%	82 9.5%
車窓からの景色	286 33.0%	217 25.0%	276 31.8%	19 2.2%	11 1.3%	58 6.7%

質問5-2 阿武隈急行線のサービスに関して、改善を望む項目について、ご自身が重要と思われる項目を**最大3つまで**選んでください。 *

☐ 運行本数・運行ダイヤ	546
☐ 所要時間	110
☐ 運賃	405
☐ 始発・終電時間	153
☐ 車両の混み具合	43
☐ 乗り心地、車両設備	35
☐ 駅待合設備	85
☐ 他鉄道との乗り継ぎ	180
☐ バスとの乗り継ぎ	56
☐ キャッシュレスシステムの導入	24
☐ 定時性	0
☐ 駅員や乗務員の接客	26
☐ 駅付近の駐車場	41
☐ 駅付近の駐輪場	10
☐ 駅の段差や階段	39
☐ ホームと車両の段差	12
☐ ホームの広さ	15
☐ 運行情報案内	68
☐ 車窓からの景色	19

質問6 現在、物価上昇や人件費高騰などにより阿武隈急行線の運行費用が上昇傾向にあります。利便性向上や運行継続のために運賃値上げが必要になったと仮定した場合の質問です。

質問6-1 「利便性向上」のため、いくらまでの値上げを許容できますか。ご自身の考えに最も近い選択肢を **1つ** 選んでください。（「運行継続」のための値上げに関する質問は、この後お聞きします。）

※ 現在の運賃は福島駅から槻木駅までの全線で980円、同区間のJR東北本線では990円です。

☐ 5%の値上げまで（全線乗り通しで約50円）	226(26.1%)
☐ 10%の値上げまで（全線乗り通しで約100円）	202(23.3%)
☐ 15%の値上げまで（全線乗り通しで約150円）	31(3.6%)
☐ 20%の値上げまで（約200円）	67(7.7%)
☐ 現状維持まで（公的支援で賄う）	191(22.0%)
☐ むしろ現状より値下げすべき（公的支援で賄う）	150(17.3%)

質問6-1-a 「値上げを許容できる」と回答した理由について、ご自身の考えに最も近い選択肢を **1つ** 選んでください。

☐ 通学・通勤などで代替できない交通手段であるため	99(18.8%)
☐ 利用頻度は多くないが電車で移動することがあるため	181(34.4%)
☐ ほとんど利用しないが交通手段の一つとして残してほしいため	203(38.6%)
☐ その他: _____	43(8.2%)

質問6 現在、物価上昇や人件費高騰などにより阿武隈急行線の運行費用が上昇傾向にあります。利便性向上や運行継続のために運賃値上げが必要になったと仮定した場合の質問です。

※現在の運賃は福島駅から槻木駅までの全線で980円、同区間のJR東北本線では990円となっています。

質問6-2 「運行継続」のため、いくらまでの値上げを許容できますか。ご自身 *
の考えに最も近い選択肢を **1つ** 選んでください。

☐ 5%の値上げまで（全線乗り通しで約50円）	228(26.3%)
☐ 10%の値上げまで（全線乗り通しで約100円）	221(25.5%)
☐ 15%の値上げまで（全線乗り通しで約150円）	40(4.6%)
☒ 20%の値上げまで（約200円）	102(11.8%)
☐ 現状維持まで（公的支援で賄う）	157(18.1%)
☐ むしろ現状より値下げするべき（公的支援で賄う）	119(13.7%)

質問6-2-a 「値上げを許容できる」と回答した理由について、ご自身の考えに最 *
も近い選択肢を **1つ** 選んでください。

☐ 通学・通勤などで代替できない交通手段であるため	132(22.3%)
☐ 利用頻度は多くないが、電車で移動することがあるため	193(32.7%)
☐ ほとんど利用しないが交通手段の一つとして残しておいてほしいため	219(37.0%)
☐ その他:	47(8.0%)

質問7 阿武隈急行の利便性向上や運行継続のために現状の公的支援や運賃とは別に負担金（協賛金や寄付金）をお支払いいただくことになったと仮定した場合の質問です。

質問7-1 「利便性向上」のための負担金（協賛金や寄付金）は、年間で1世帯あたりいくらなら払うことができると思いますか。ご自身の考えに最も近い選択肢を**1つ**選んでください。（「運行継続」のための負担金に関する質問は、この後お聞きします。）

☐ 1000円未満（毎月80円程度）	306(35.4%)
☐ 2000円未満（毎月170円程度）	121(14.0%)
☐ 3000円未満（毎月250円程度）	96(11.1%)
☐ 5000円未満（毎月420円程度）	56(6.5%)
☐ 10000円未満（毎月830円程度）	23(2.6%)
☐ 20000円未満（毎月1670円程度）	17(2.0%)
☐ 負担金は支払えない	246(28.4%)

質問7-1-a 「負担金は支払えない」と答えた理由について、ご自身の考えに最も近い選択肢を**1つ**選んでください。 *

☐ 負担金（協賛金や寄附金）ではなく、運賃を値上げすることで利便性向上を図るべきと思うため	42(16.9%)
☐ 負担金（協賛金や寄附金）ではなく、公的支援を増やすことで利便性向上を図るべきと思うため	54(21.8%)
☐ 阿武隈急行線の利便性向上に、負担金（協賛金や寄附金）を支払う価値があるとは思えないため	21(8.5%)
☐ 阿武隈急行線を利用することがないため	53(21.4%)
☐ 判断に必要な情報がないため	48(19.3%)
☐ その他: _____	30(12.1%)

質問7 阿武隈急行の利便性向上や運行継続のために現状の公的支援や運賃とは別に負担金（協賛金や寄付金）をお支払いいただくことになったと仮定した場合の質問です。

質問7-2 「運行継続」のための負担金（協賛金や寄付金）は、年間で1世帯あたりいくなら払うことができますか。ご自身の考えに最も近い選択肢を**1つ**選んでください。 *

☐ 1000円未満（毎月80円程度）	311(35.9%)
☐ 2000円未満（毎月170円程度）	134(15.4%)
☐ 3000円未満（毎月250円程度）	95(11.0%)
☐ 5000円未満（毎月420円程度）	61(7.0%)
☐ 10000円未満（毎月830円程度）	24(2.8%)
☐ 20000円未満（毎月1670円程度）	20(2.3%)
☐ 負担金は支払えない	222(25.6%)

質問7-2-a 「負担金は支払えない」と答えた理由について、ご自身の考えに最も近い選択肢を**1つ**選んでください。 *

☐ 負担金（協賛金や寄附金）ではなく、運賃を値上げすることで運行継続を図るべきと思うため	36(16.2%)
☐ 負担金（協賛金や寄附金）ではなく、公的支援を増やすことで運行継続を図るべきと思うため	54(24.3%)
☐ 阿武隈急行線の運行継続に、負担金（協賛金や寄附金）を支払う価値があるとは思えないため	16(7.2%)
☐ 阿武隈急行線を利用することがないため	52(23.4%)
☐ 判断に必要な情報がないため	38(17.2%)
☐ その他: _____	26(11.7%)

質問8 ご自身のことについてお聞きます。

質問8-1 あなたの性別を教えてください。 *

☐ 男	458	52.8%
☐ 女	382	44.1%
☐ その他	2	0.2%
☐ 回答しない	25	2.9%

質問8-2 あなたの年齢を教えてください。 *

☐ 20歳未満	179	20.6%
☐ 20歳代	122	14.1%
☐ 30歳代	121	14.0%
☐ 40歳代	151	17.4%
☐ 50歳代	164	18.9%
☐ 60歳代	87	10.0%
☐ 70歳代	25	2.9%
☐ 80歳以上	4	0.5%
☐ 回答しない	14	1.6%

質問8-3 お住まいの郵便番号を教えてください *

※ 半角数字でお答えください。ハイフン (-) は不要です。

回答を入力

福島市	253	29.3%
伊達市	197	22.8%
丸森町	99	11.5%
角田市	148	17.1%
柴田町	62	7.2%
仙台市	31	3.6%
その他	73	8.5%

質問8-4 2019年（平成31年／令和元年）ころのお住まいは、現在とは異なりま
すか。ご自身の状況に最も近い選択肢を **1つ** 選んでください。

☐ 現在と同じ	622(72.2%)
☐ 現在とは異なるが、阿武隈急行線を利用しようと思えばできる地域に住んでいた	122(14.1%)
☐ 現在とは異なり、阿武隈急行線を利用できない地域に住んでいた	119(13.7%)

質問9 最後に、阿武隈急行線に関する御意見・御要望をお聞きます。

他の交通手段と比べて改善すべき点や優れている点など御意見や御要望がありましたら自由にお書きください。特にない場合は、入力せずに『送信』を選択してください。

回答を入力

- ・ 合計399件の意見等が寄せられ、そのうちダイヤの改善について84件、運賃の高さについて52件の意見があった（一部重複あり）。
- ・ ダイヤの改善については、朝夕の通勤・通学時間帯の増便や終電時間の繰り下げ、快速列車の導入の要望が多かった。
- ・ 運賃については、運賃の高さ、特に近距離での運賃や定期代の高さについての意見が多かった。
- ・ その他、福島駅から卸町駅間に新駅を設置することや、駅へのエレベーター設置、運行情報のSNS等でのリアルタイムでの発信などの意見が目立った。
- ・ 改善点について多くの御意見が寄せられる一方で、沿線地域にとって必要な交通手段であるなど、運行の継続を望む趣旨の意見も114件寄せられた。